

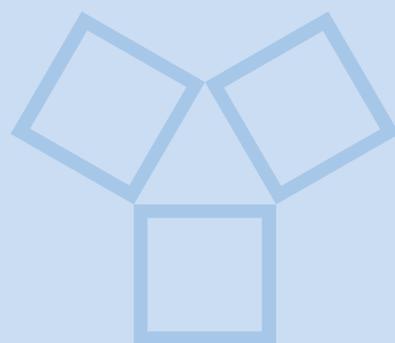
2022

令和4年度

横浜美術館年報

Yokohama Museum of Art Annual Report

April 2022 – March 2023



YOKOHAMA MUSEUM OF ART

2022

令和4年度

横浜美術館年報

Yokohama Museum of Art Annual Report

April 2022 – March 2023

序

横浜美術館は、平成元（1989）年の開館以来初となる大規模改修工事のため、令和2（2020）年度末より休館しています。令和6（2024）年3月、第8回横浜トリエンナーレをもってリニューアルオープンの予定です。

所蔵作品と書籍等を外部倉庫に送り出し、全職員が仮事務所へ移った令和3（2021）年度。美術館に帰還予定の令和5（2023）年度。両年度にはさまれ、本令和4（2022）年度は3年間で唯一引っ越し作業のない年でした。しかしこの1年も美術館は、仮事務所における事業を実施しながら、活動再開に向けて着実に準備を進めてきました。

まず展覧会事業として「New Artist Picks: Wall Project 浦川大志 | 掲示：
スマートフォン
智能手机ヨリ横浜仮囲之図」（pp.10-11）をあげます。これは工事用仮囲いを使って若手アーティストに作品を発表してもらうという、この期間らしい試みの第2弾です。

教育普及事業は前年度に引き続き、仮事務所で開催する「やどかりプログラム」と市内18区に出向く「横浜〔出前〕美術館」の2つを柱に展開しました。「やどかりプログラム」のうち「見て、聞いて、体験！たき美学」「五感で学ぶ焚美学」（p.21）は、美術館内ではむずかしい、仮事務所ならではの火を使ったプログラムでした。

みなとみらい地区に急速に数を増す近隣企業とのコラボレーションも複数実現しました。「アイマスクで粘土造形一閉ざされる感覚、拓かれる感覚」（p.24, p.32）は、視覚を断って粘土に触れるビジネスパーソンに大好評のプログラムです。「MMパークビル」のエントランスでは、所蔵作品にまつわる映像のプロジェクトを実施しました（p.32）。

また当館では、令和5（2023）年度に始まる10年の指針として、「多様性」を主旨とする「みなとモデル」を掲げています。この理念の具体化に向け、本年度もさまざまな試みを行いました。グランドギャラリーを中心とする無料エリアの空間構成、調度什器等を検討する「全体デザインプロジェクト」では、市内NPOの協力を得、障がいのある当事者をお招きして「インクルーシブデザインワークショップ」（p.35）を実施しました。横浜国立大学連携のアウトリーチ事業および関連事業「walking practice—ケアではない共存のためのトレーニング」（p.21, p.24）では、アーティスト、檜皮一彦氏を招き、車いすを使ったプログラムを行いました。「若者支援プログラム」では、ひきこもりの若者たちと向き合った年月の総括として、シンポジウム「若者支援プログラムを解体し、創造する～9年間の歩みとこれから～」（p.20）を開催しました。

これまで常にお客さまの反応を抛り所に事業を進めてきた美術館職員にとって、長い休館期間の中間地点にあたるこの1年は、時に不安をとまなうものでした。活動再開ののちには、この1年の悩み、とまどいもみごとな実を結ぶことと信じて、ここに令和4年度の活動の記録をお送りします。

蔵屋美香
横浜美術館館長

目次

基本方針・沿革	7
展覧会事業	
概要	9
New Artist Picks: Wall Project	10
浦川大志 掲示: 智能手机ヨリ横浜仮囲之図	
調査研究・普及活動(個人)	12
美術情報センターの活動	15
教育普及事業	
概要	17
鑑賞サポート	20
子どものアトリエ・市民のアトリエ	21
市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業	
市民協働	23
地域社会や市民生活に貢献する事業	24
美術品の収集、保存・修復、貸出	
収集	26
保存・修復	27
貸出	29
広報の活動、外部と連携した事業	
広報	31
外部と連携した事業	32
来館者へのおもてなし	33
国際的な交流・発信	34
改修後の再オープンを見据えた取組み	35
資料	
入館者数・収支	37
役員等・組織図	38
職員名簿	39
条例・施行規則	40
施設概要・利用案内	45

基本方針・沿革

基本方針：国際都市横浜にふさわしい世界に開かれた美術館を目指して

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団は、横浜市との政策協働による指定管理者制度に基づき、平成25年度から10年間にわたり横浜美術館の運営を担っています。10年間にわたる重点項目として、「発信力の強化」「教育プログラムの強化」「市民とつながるプログラムの強化」「営業力の強化」「経営基盤と人材の強化」の5つを定め、次に掲げる美術館を目指しています。

- ・市民の誰もが美術に親しみ、多くの市民に「観る」「創る」「学ぶ」機会を提供することにより、市民の創造性を育み、心豊かで活力に満ちた生活の実現に貢献する美術館。
- ・世界各国の美術館や美術関係者などとのネットワークの強化や国際交流を促進するとともに、横浜独自の魅力的で質の高い美術文化を国内外に発信することにより、国際都市横浜の魅力とアイデンティティの確立に貢献する美術館。
- ・市民、学校、NPO、企業等の様々な立場や年代、属性を持つ人々と協働することにより、市民から親しまれ、市民が集う、地域に開かれた美術館。
- ・未来を担う子どもたちの創造性を育むため、地域の学校や大学などと連携した取組みを進め、文化芸術教育の中心的な役割を担う美術館。

沿革

昭和62年10月	運営組織として財団法人横浜市美術振興財団設立
昭和63年3月	建物竣工
9月	横浜美術館条例制定
平成元年2月	外構工事完了
3月25日	美術館開設(横浜博覧会施設として)
11月3日	横浜美術館条例施行・開館
平成14年4月	運営組織が財団法人横浜市文化振興財団と統合され、財団法人横浜市芸術文化振興財団となる。
平成18年4月	管理運営に指定管理者制度が導入され、財団法人横浜市芸術文化振興財団が指定管理者となる。(2年間)
平成20年4月	横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体が指定管理者となる。(5年間)
平成21年7月	財団法人横浜市芸術文化振興財団が公益法人として認可され、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団となる。
平成25年4月	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が指定管理者となる。(10年間)

展覧会事業

概要

展覧会は美術館で実施されるさまざまな活動のなかでも、中心的な事業です。横浜美術館では、現在、おおむね次の4種類の展覧会を実施しています。

1つめは、企画展と呼ばれる展覧会です。内外の美術館やコレクターなどから、一定のテーマに基づいて作品や資料を借用し展覧会を構成します。2つめは、コレクション展です。美術館が収集してきた美術品や資料をご覧いただく展覧会です。3つめは、「New Artist Picks」(NAP)という呼び名を持つ展覧会です。今後の活躍が期待される若いアーティストが、小企画スペースであるアートギャラリー1、グランドギャラリーなど、館内のさまざまな場所を使って意欲的な作品を発表します。そして4つめとして、2011年度から横浜トリエンナーレを企画展事業のひとつとして位置づけています。

企画展

横浜美術館は次のような基本方針により、年間3～4本、バラエティに富んだ内容で企画展を実施しています。平成元年の開館以来、これまでに129本の企画展が開催されました。

- 1 国際港都横浜にふさわしい世界的な視野の企画。
- 2 地域の人々が現代美術に親しみ、現代美術に対する理解を促すような企画。
- 3 横浜と日本写真史の関係を重視し、国際的視野における現代までの写真を多角的にとらえた企画。
- 4 近代日本の美術および横浜ゆかりの美術展。特に原三溪ゆかりの作家を重視しつつ、開港以来の洋画・日本画の流れを歴史的にとらえた企画。また、横浜出身または在住作家を中心に、横浜の美術史を多角的に紹介する企画。
- 5 建築、工芸、デザインなど生活に密着した分野の企画。

コレクション展

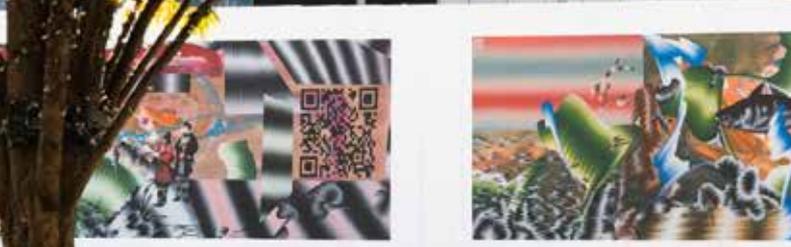
当館では、4部屋の展示室を使って、年間1～2回の展示替えをおこない、コレクションを紹介しています。約13,000点のコレクションの中から、常時200～300点の作品を厳選して展示します。毎回テーマを設定することで、さまざまな角度からコレクションの魅力にアプローチをしています。当館の収集方針に基づき、分野ごとの特徴をわかりやすく展示する会期もあれば、全体を統一したテーマで構成し、分野を横断した展示を行うこともあります。

New Artist Picks (NAP)

NAP(ナップ)は、New Artist Picksの頭文字を採った呼び名で、横浜美術館の学芸員が独自の視点で選出する国内外の新進アーティストによる小展覧会です。平成18年から進めてきた若手作家支援のプログラムのひとつで、年1回程度実施し、入場無料でご覧いただけます。

横浜トリエンナーレ

横浜トリエンナーレは、横浜市で3年に1度開催する現代アートの国際展です。国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示しています。2001年に第1回展を開催して以来回を重ね、世界の情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い直してきました。第1回(2001年)から第3回(2008年)までは独立行政法人国際交流基金が主催団体のひとつとして事務局を担い、現代アートを通じて日本と各国との文化交流を促すことを目的に事業を実施してきました。第4回(2011年)以降、運営の主体を横浜市に移した後も、文化庁の支援を受けたナショナルプロジェクトとして、そして文化芸術創造都市・横浜を象徴するプロジェクトとして開催を重ね、横浜美術館をメイン会場のひとつとして、多数の来場者を迎えています。



New Artist Picks: Wall Project 浦川大志 | 掲示: スマートフォンヨリ横浜仮囲之図

当館では、将来活躍が期待される若手アーティストを紹介する小企画展「New Artist Picks」を、平成19年よりアートギャラリーなど館内の展示スペースで開催してきました。

大規模改修工事による休館中は、その特別版となる「Wall Project」として、グランモール公園「美術の広場」に面した工事用仮囲いで、2回にわたり若手アーティストの創作を紹介します。

その第2回目となる今回は、デジタルネイティブ世代の浦川大志による「掲示: 智能手机ヨリ横浜仮囲之図」を開催しました。浦川は描画用のソフトウェアを模した筆致が特徴的なアーティストです。本プロジェクトでは横浜美術館、中華街など横浜ゆかりのモチーフを描くとともに、QRコードを加筆するなど実験的な仕掛けも施した、すべて新作からなる5枚の連作を掲出しました。

また当館仮事務所で実施する「やどかりプログラム」の一環として、作家の公開制作を兼ねたアーティストトークを開催、また担当学芸員によるアーティスト・インタビューを行い、どちらの映像も当館公式YouTubeチャンネルにて公開しました。

主催: 横浜美術館
場所: 横浜美術館前仮囲い(グランモール公園「美術の広場」)
期間: 令和4年11月14日(月) - 令和5年7月31日(月)
開催日数: 260日
観覧料: 無料
出品作品数: 5点
出展作家: 1人
担当: 南島 興
リーフレット: 14頁
 発行・編集: 横浜美術館
 執筆: 南島 興「ショーウィンドウと曖昧なもの-浦川大志の場合-」



ステッカー・DM



リーフレット

広報印刷物・リーフレットデザイン:
伊藤浩平

撮影: 山中慎太郎

調査研究・普及活動（個人）

紀要

横浜美術館研究紀要

第24号, 2023年

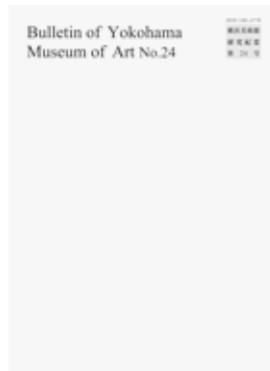
109頁

発行日: 令和5年3月31日(金)

発行部数: 440部

掲載論文:

- ・大澤紗蓉子/【研究ノート】1920-40年代の在米日本人写真家たちに関する基礎調査2 一河野浅八と下島勝信「欧米写真芸術界鳥瞰」について
- ・中村尚明/丹下健三による3つの広島平和記念公園慰霊施設案とイサム・ノグチの設計参加前後の広島市の戦災死没者慰霊施設設計画
- ・端山聡子/横浜美術館の教育普及における所蔵作品とボランティアの関わり 一自主グループ活動の共同性から新たな価値創造へ



収藏品目録

横浜美術館収藏品目録2021

(令和3年度)

52頁

発行日: 令和5年3月31日(金)

発行部数: 500部



普及活動（個人）

◎執筆・寄稿

蔵屋美香

- ・寄稿「ヒルマ・アフ・クリントの画面を読む」、『見えるもの、その先に ヒルマ・アフ・クリントの世界』, トレノバ, 2022年4月9日(土)
- ・寄稿「川内理香子: 火にかけたものと生のもの」, 『Rikako Kawauchi: Works 2014-2022』美術出版社, 2022年7月14日(木)
- ・寄稿「鷺見和紀郎インタビュー(聞き手, 編集・構成)」, 『鷺見和紀郎 brilliant corners』BankART1929, 2022年8月26日(金)
- ・寄稿「うずまき鳥クロニクル: 高木大地の作品について」, 『Daichi Takagi 2010-2022』, KAYOKOYUKI, 2022年10月28日(金)
- ・「2022年ベスト展覧会」『Tokyo Art Beat』, 2022年12月23日(金) 公開
- ・「読者アンケート」『みすず』, みすず書房, 2023年2月1日(水)
- ・寄稿「渦外のP」, 『渦中のP 大岩雄典』カタログ, 十和田市現代美術館, 2023年3月1日(水)
- ・レビュー「松田修《奴隷の椅子》+個展『膿を照らす』レビュー。『僕ら』の存在を美術史に書き込む」, 『Tokyo Art Beat』, 2023年3月17日(金) 公開
- ・寄稿「たとえば、高松次郎と比べてみる」, 『宇佐美圭司 よみがえる画家記録集』東京大学駒場博物館, 2023年3月25日(土)

木村絵理子

- ・寄稿「アピチャッポン・ウィーラセタクン新作映画『MEMORIA』を展覧会として観る」『Tokyo Art Beat』, 2022年4月23日(土) 公開
- ・「新人大図鑑2022: 評論家・学芸員が選ぶ注目の新人」『美術の窓』, 生活の友社, 2022年5月号
- ・寄稿「見えないものが見えてくる彫刻、あるいは、見たくても見られない絵画」『飯川雄大 テコレータークラブ 同時に起きる、もしくは遅れて気づく 展覧会記録集』, 彫刻の森美術館, 2023年3月
- ・「アートビープル」『アートコレクターズ』, 生活の友社, 2023年3月号
- ・「女性キュレーター6人が選書! キャリアや人生を勇気づけた女性アーティストの本【アートで祝う国際女性デー】」『ARTnews JAPAN』, 2023年3月8日(水) 公開

大澤紗蓉子

- ・「総論 日本写真史のなかの土門拳」『土門拳記念館コレクション展 土門拳一肉眼を超えたレンズ』図録, 2022年5月
- ・「写真とインテックスー石内都〈絶唱、横須賀ストーリー〉の場合」, 雑誌『写真』第2号, ふげん社, 2022年7月20日(水)
- ・「System of Culture にとっての〈Still Life〉」『System of Culture 個展 “Exhibit 4”』CALM & PUNK GALLERY, 2022年5月13日(金)-6月5日(日)
- ・「エレナ・トウタッチコワ」『VOCA2023 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』図録, 『VOCA展』実行委員会/上野の森美術館, 2023年3月

端山聡子

- ・「教育普及—ミッションと利用者がつながる場所で立ち現れる活動として」『国立国際美術館ニュース』第246号, 国立国際美術館, 2022年8月

日比野民蓉

- ・「太くて低い虹さえあれば、世界はあんがい、虹だらけ?」んまつーポスダンス公演『太くて低い虹』パンフレット, 2022年12月

南島 興

- ・連載「Contemporary Art Now」『アートコレクターズ』, 生活の友社
- ・レビュー「小森紀綱『灰色の輝ける贈り物』展」, 2022年10月8日(土) 公開
- ・「学校を再発明せよ! 現代美術、過去10年への応答」『ARTnews JAPAN』, 2022年10月20日(木) 公開
- ・「有識者が選ぶ2022年の展覧会ベスト3」ウェブ版『美術手帖』, 2022年12月29日(木) 公開
- ・「二重のパロディ、太郎を笑い飛ばせるか?」『悲劇喜劇』, 早川書房, 2023年1月号
- ・「クリスチャン・ヒダカ&タケシ・ムラタ『訪問者』」展レビュー, 『Tokyo Art Beat』, 2023年2月25日(土) 公開

◎発表・講演会・シンポジウム

蔵屋美香

- ・トークイベント「松田修×蔵屋美香」,「すみっこ☆CRASH」展,無人島プロダクション,4月2日(土)
- ・トークイベント「アフタートーク:見えるもの、その先に ヒルマ・アフ・クリントの世界」,ユーロスペース,4月9日(土)
- ・講演会「現代美術をわかりたい人のために、あえて美術の歴史をさかのぼる講座」,Think School,5月28日(土)
- ・トークイベント「大岩雄典×蔵屋美香」,「渦中のP」展,十和田市現代美術館,8月13日(土)
- ・トークイベント「美術評論家連盟 Re:2022年の美術」YAU STUDIO,12月10日(土)
- ・講評「令和4年度東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻 油画/版画/壁画/油画技法・材料 卒業・修了制作展」,1月28日(土)
- ・トークイベント「作品のはなしとその他のはなし。」,「光岡幸一展:ぶつちぎりのゼッター120%」,ガーデン・ガーデン,2月28日(火)

内山淳子

- ・講演会「岡倉天心市民研究会第44回研究会」,4月23日(土)

木村絵理子

- ・対談「八木夕菜 個展『視/覚の偏/遍在』」K Contemporary,4月29日(金祝)
- ・ゲストトーク「伊佐治雄吾+Kaichung Lee『あなたのかわりに』」,Art Center Ongoing,7月24日(日)
- ・アークスプロジェクト2022いばらき「アーティスト・イン・レジデンスプログラム」,キュレーター・ヴィジット講評,11月18日(金)
- ・対談「石川竜一 個展「zk」」,「zk」をめぐって2」PURPLE,12月25日(日)
- ・トークイベント「加藤康司 自主回顧展:もう一度思い出す」AI KOKO GALLERY,3月11日(土)

端山聡子

- ・対談「NMAOトークマラソン2022」国立国際美術館,9月10日(土)

大澤紗香子

- ・講演「日本写真史のなかの土門拳」,「土門拳記念館コレクション展 土門拳一肉眼を超えたレンズ」関連イベント,安曇野市豊科近代美術館,6月19日(日),直方谷尾美術館,8月7日(日),安来市加納美術館,10月16日(日),八幡浜市美術館,11月27日(日)

南島 興

- ・トークイベント「東北画は可能か?—千景万色—」原爆の図 丸木美術館,4月17日(日)
- ・トークイベント「アート・ジャーナリズムの夜」NAKED LOFT YOKO-HAMA,4月27日(水),5月31日(火),6月11日(土),7月27日(水),8月31日(水),9月29日(木),10月28日(金),11月29日(火),12月23日(金),1月31日(火),2月24日(金),3月22日(水)
- ・オンライン・トーク「同時代性とは何か:現代美術の現状報告と現代建築へのいくつかの問いかげ」メニー・カンファレンス,5月14日(土)
- ・トークイベント「年末座談会:学校を再発明する」TOMO都市美術館,12月30日(金)
- ・オンライン・トーク「坂口恭平日記」展関連イベント,熊本市現代美術館,3月18日(土)

◎非常勤講師等

蔵屋美香

- ・日本大学,芸術学部「芸術学特殊研究」,通年
- ・多摩美術大学「絵画制作研究(油画)I,II」,通年

- ・千葉大学,全学教育センター「博物館実習B(美術館)」,通年
- ・慶應義塾大学,商学部オムニバス科目「21世紀の実学」講演,12月8日(木)

柏木智雄

- ・慶應義塾大学,文学部「博物館経営論」,後期

帆足亜紀

- ・神奈川大学,外国語学部「総合講座・中国と世界」,前学期

木村絵理子

- ・女子美術大学,「アートプロデュース概論」,後期

木下貴博

- ・横浜美術大学,「彫刻表現I」「彫刻表現II」,前期

端山聡子

- ・跡見学園女子大学,「博物館教育論」ゲストスピーカー,7月22日(金)
- ・多摩美術大学,芸術学科「生涯学習論 R」,前期
- ・多摩美術大学,芸術学科「美術普及概論」,後期
- ・多摩美術大学,生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻「PBL II-24 五感を刺激するワークショップ実践」,通年

片多祐子

- ・京都芸術大学,通信教育部博物館学芸員課程「博物館資料論」,通年
- ・京都芸術大学,通信教育部博物館学芸員課程「博物館実習③」,11月25日(金),1月13日(金)
- ・神奈川大学,国際日本学部「文化資源論」ゲスト登壇,1月19日(木)

八柳サエ

- ・昭和女子大学,人間文化学部「博物館情報・メディア論」,通年
- ・法政大学,市ヶ谷リベラルアーツ,特別講義「美術館の役割」講師,12月15日(木)

坂本恭子

- ・共立女子大学・共立女子短期大学「博物館学概論(学芸員資格取得課程)」,後期
- ・横浜国立大学「アート・マネジメント」講義,11月1日(火)

日比野民蓉

- ・慶應義塾大学,文学部「美術史特殊II」,後期
- ・東洋英和女学院大学,前期授業科目「芸術学B」ゲスト登壇,7月21日(木)

南島 興

- ・青山学院大学,「ミュージアム実習II(アートビジネス実践)」ゲストスピーカー,11月29日(火)

◎委員・審査員等

蔵屋美香

- ・金沢21世紀美術館 美術館美術品収集委員会委員
- ・愛知県美術館美術品収集委員会委員
- ・滋賀県立美術館協議会委員
- ・弘前市美術作品等収集選定委員会委員
- ・山梨県立美術館専門委員
- ・2021年度三菱商事アート・ゲートプログラム(MCAGP)「アクティブーション」選考委員兼メンター(2023年3月まで)
- ・令和7年度版中学校「美術」教科書編集委員(代表著者:酒井忠康)
- ・第38回京谷都賞 思想・芸術部門審査委員会委員

調査研究・普及活動（個人）

- ・公益財団法人アイスタイル芸術スポーツ振興財団2022年度「現代芸術振興助成」選考委員
- ・横浜美術館協会顧問
- ・一般財団法人奈良美智財団理事
- ・公益財団法人石橋財団評議員

柏木智雄

- ・横須賀美術館運営評価委員会委員
- ・東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員(美術部門)
- ・公益財団法人馬事文化財団馬事博物資料審査委員会資料審査委員, 9月11日(日)
- ・文化庁 令和4年度(第73回) 芸術選奨推薦委員

松永真太郎

- ・東京国立近代美術館美術作品評価員(写真部門)
- ・東京都写真美術館作品資料収蔵委員会委員

帆足亜紀

- ・公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーアーツアンドスペース外部評価委員会委員

木村絵理子

- ・[KYOTOGRAPHIE2022] インターナショナル・ポートフォリオレビュー審査, 4月9日(土)・10日(日)
- ・「アートアワードトーキョー丸の内2022」審査員
- ・[Idemitsu Art Award 2022] 審査員
- ・「コピックアワード2022」審査員
- ・「第10回500m美術館賞」ゲスト審査員
- ・「TERRADA ART AWARD 2023」一次審査員
- ・東京国立近代美術館美術作品評価員

藤井聡子

- ・東京国立近代美術館「美術館の春まつり」広報物デザインおよび印刷業務の企画競争業者選定企画審査委員会委員, 11月24日(木) - 12月1日(木)

端山聡子

- ・藤沢市アートスペース運営協議会委員
- ・「伝統文化親子教室事業」及び令和3年度第一次補正予算事業「子供たちの伝統文化体験事業」協力者会議委員, 4月6日(水)
- ・国立民族学博物館国際研修博物館学コース運営委員会専門委員
- ・第22回カナガワビエンナーレ国際児童絵画展, 第1次審査員, 1月19日(木)

襟川文恵

- ・一般社団法人日本和文化振興プロジェクト「日本和文化グランプリ」審査員
- ・東方文化支援財団「PROJECT ATAMI / ATAMI ART GRANT」審査員
- ・公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京 外部評価委員

八柳サエ

- ・佐藤美術館奨学金選考委員
- ・アート・ドキュメンテーション学会2023-2024年度役員選出委員会委員

大澤紗蓉子

- ・「VOCA2023 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」推薦委員

日比野民蓉

- ・国際交流基金「令和5年度海外展助成プログラム」応募書類審査員

森 未祈

- ・学校法人写真学園東京総合写真専門学校 評議員

◎その他

蔵屋美香

- ・BankART「鷺見和紀郎『brilliant corners』」展, インタビュー取材および原稿執筆
- ・文化庁令和4年度 大学における文化芸術推進事業「東京大学|文化芸術におけるSDGsのためのファシリテーター育成事業」意見交換出席
- ・東京国立近代美術館ニュース「現代の眼」記事のための対談出席及び記事掲載

帆足亜紀

- ・せんだいメディアテーク「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」令和4年度アドバイザー
- ・「アートウィーク東京2022」ラウンドテーブルモデレーター, 11月4日(金)
- ・「神奈川県民ホールのある方検討ヒアリング」, 12月7日(水)

襟川文恵

- ・一般社団法人Arts and Creative Mindトークショー「自然と生きるという選択」ファシリテーター, 9月16日(金)

中村尚明

- ・公益財団法人国際文化会館「イサム・ノグチ作《広島の子供のためのメモリアル》をテーマとするセミナー」講師, 3月24日(金)

八柳サエ

- ・「シドモア桜の会 横浜」理事

日比野民蓉

- ・ダンス公演「太くて低い虹」アドバイザー, 12月24日(土)

南島 興

- ・「美術の新たな目つきを探して」インタビュー掲載, ウェブ版『美術手帖』, 10月2日(日) 公開
- ・BSフジ「アートフルワールド～たぶん、すばらしき芸術の世界～」出演, 11月26日(土) 放送
- ・東急株式会社ECサイトリニューアルに向けた作家へのインタビューをもとにした記事の作成

美術情報センターの活動

美術情報センターは、美術に関する図書資料、映像資料等を収集、整理、保存し、市民や研究者の利用に供することを目的としています。また、所蔵資料を活用し、コレクション展との連携を行っています。

* 令和4年度は大規模改修工事のため休室

収集・整理・保存・利用状況

収集実績

	購入	寄贈	合計
和書	316冊	257冊	573冊
洋書	86冊	12冊	98冊
和カタログ	5冊	927冊	932冊
洋カタログ	38冊	56冊	94冊
図書資料収集総数			1,697冊
逐次刊行物収集総数			1,193冊
蔵書総数			241,730冊
逐次刊行物			3,619タイトル

教育普及事業

概要

横浜美術館の教育普及活動は、企画展やコレクション展に多角的な視点で関わる「鑑賞サポート」と、アトリエを中心に開催される「創作・造形プログラム」とを組み合わせ、特色ある事業を展開しています。また、学校教育や環境啓発・医療・福祉など、地域や社会と連携した取組みも積極的に行っています。

「鑑賞サポート」には、学芸グループによる企画展関連プログラムと、教育普及グループによるコレクション展関連プログラムがあります。学芸グループは企画展における学芸員や多彩なゲスト、アーティストによる講演会やトーク、シンポジウムなどを開催しています。教育普及グループは職員の持つ専門性を活かしたコレクション展ギャラリートークや中高生を対象にした個人向けや学校向けのプログラムのほか、鑑賞ボランティアをはじめとする市民協働の担い手を育成し、学校教育や地域の福祉支援団体と連携して美術館と市民生活とを繋げる取組みを行っています。

「創作・造形プログラム」は、主に「子どものアトリエ」と「市民のアトリエ」で開催されます。

「子どものアトリエ」の「プレイルーム」「クラフトルーム」「光と音のスタジオ」では、小学校6年生（12歳）までの子どもを対象とし、主体性の獲得を目的にエドゥケーターによるさまざまな造形体験を提供しています。平日には幼稚園・保育園、小学校、特別支援学校などの教育機関と連携し、造形や鑑賞の活動を行う「学校のためのプログラム」を、休日には個人を対象とした「親子のフリーゾーン」や「造形講座」を行っています。春と夏には「教師のためのワークショップ」を開催し、指導者への研修事業に取り組んでいます。

「市民のアトリエ」の「立体室」「平面室」「版画室」では、12歳以上を対象に、「つくる」プロセスを通して市民と作家、市民と市民が出会い、美術に親しむ場を提供しています。本格的な設備を有する各室で、楽しくアートとふれあう講座から専門的な創作体験まで、幅広いワークショップを展開するとともに、「オープンスタジオ」として開放し、市民の自主的な制作を支援しています。また、エドゥケーターと学芸員の連携により、展覧会に関する作品・作家、技法紹介など多彩なプログラムを企画し、より深い鑑賞へと誘います。

令和4年度の総括

仮拠点PLOT 48での活動2年目となりました。

「やどかりプログラム」では、COVID-19対策を万全に施したうえで創作・造形プログラムに取り組むとともに、オンラインを活用したコレクションの鑑賞プログラムをボランティアと実施し、さらにTwitterやnoteを活用した発信を行いました。

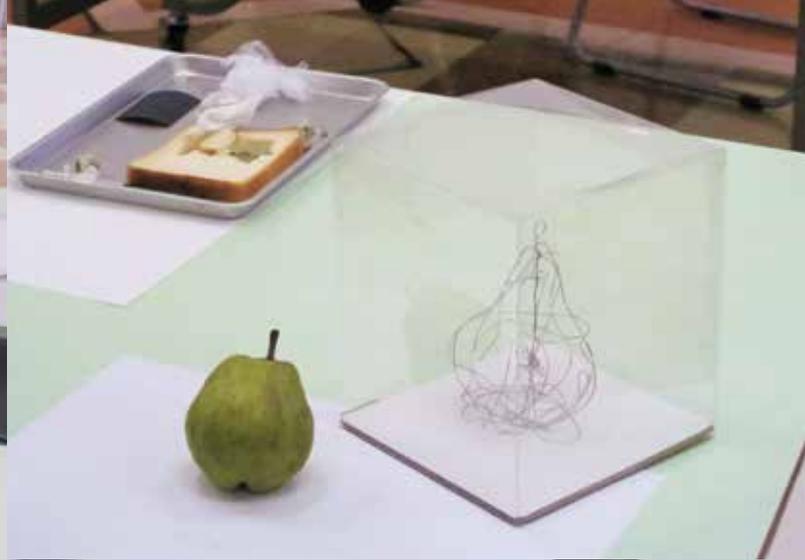
また、市内18区への出張講座「横浜[出前]美術館」では、南区、保土ケ谷区、泉区で造形のワークショップを、神奈川区、中区で所蔵作品に関するレクチャーを実施しました。

ほかにも、学校、地域の療育センター、そして若者支援施設での社会貢献・アウトリーチプログラムや、企業や大学などとの連携事業、指導者向けのプログラムなどさまざまなプログラムを実施しました。

オンラインを活用した取組みでは、映像シリーズ「じっくりみる この一点」で新たに3作品を公開、コレクションに用いられる技法を造形エドゥケーターの実演により紹介するシリーズ「どんな技法？」で2作品を公開しました。

これらオンラインコンテンツやアトリエの30年にわたる造形活動を収めた映像や資料の整理などアーカイブの充実に努めるとともに、節目となった事業について振り返りのシンポジウムの開催や報告書の発行をおこないました。





鑑賞サポート

若者支援プログラム

シンポジウム「若者支援プログラムを解体し、創造する～9年間の歩みとこれから～」

日時:5月14日(土) 13:30～16:00

講演:佐藤洋作(認定特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク 代表理事)

担当:端山聡子,古藤 陽

参加費:無料

オンライン

参加人数:52人

※7月31日(日) シンポジウム報告書発行

人材育成事業

教師のための鑑賞会

日時:6月18日(土),9月24日(土)

10:30～11:30

担当:端山聡子,古藤 陽

オンライン

参加人数:5人,8人

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

図画工作科美術科研修

日時:7月22日(金) 14:00～16:00

講師:古藤 陽,大塚真弓,端山聡子

オンライン

参加人数:19人

横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会「公開研究会」報告書発行

発行日:3月31日(金)

担当:端山聡子,古藤 陽

ボランティアによる活動

横浜美術館コレクションと歩く

ヨコハマ・アートウォーク

【オンラインプログラム】

A. コレクションでめぐる横浜今昔～海岸通り編～

日時:6月22日(水) 10:30～11:30

7月9日(土) 14:00～15:00

12月7日(水) 10:30～11:30

B. 横浜懐古 桜木町駅周辺今昔散歩

日時:6月22日(水) 14:00～15:00

7月2日(土) 10:30～11:30

12月3日(土) 10:30～11:30

C. 横浜美術館から広がるみなとみらい

日時:6月25日(土) 14:00～15:00

7月6日(水) 10:30～11:30

11月30日(水) 10:30～11:30

担当:大塚真弓

参加費:無料

オンライン

参加人数:A8人・5人・8人,B7人・9人・10人,C6人・9人・13人

やどかりプログラム

「横浜美術館コレクションを深掘りする」

【オンライン・レクチャー】

担当:端山聡子,大塚真弓

●第1回 写真家 奥村泰宏・常盤とよ子夫妻が写した戦後横浜の光と影

日時:10月8日(土) 10:30～12:30

講師:西村 健(横浜開港資料館 調査研究員)

参加費:無料

対象:15歳以上

オンライン

参加人数:37人

●第2回、第3回 描かれた能楽一収蔵作品を中心に

日時:11月19日(土),1月21日(土)

10:30～12:30

講師:小林健二(国文学研究資料館 名誉教授)

参加費:無料

対象:15歳以上

オンライン

参加人数:50人,66人

●第4回 建築家 堀越英嗣が語る 横浜美術館の設計プロセスと師・丹下健三の仕事

日時:2月18日(土) 10:30～12:30

講師:堀越英嗣(建築家/株式会社 堀越英嗣

ARCHITECT 5 代表/芝浦工業大学

名誉教授)

参加費:無料

対象:15歳以上

オンライン

参加人数:70人



若者支援プログラム シンポジウム



図画工作科美術科研修



「横浜美術館コレクションを深掘りする」第1回



「横浜美術館コレクションを深掘りする」第2回



横浜美術館コレクションと歩く ヨコハマ・アートウォーク



横浜美術館コレクションでめぐる物語の世界



木の車をつくろう



カラービニールのお洋服をつくろう



大きなお面をつくろう!



村上早トーク「銅板を傷つけながら考えること」



五感で学ぶ焚美学



walking practice

やどかりプログラム

◎子ども・親子対象

木の車をつくろう

日時:5月21日(土)
Aコース 10:30~12:00
Bコース 14:00~15:30

講師:園田泰士
担当:桜庭瑠実,泉 桐子
参加費:1,500円

対象:小学校1・2・3年生
会場:PLOT 48 スタジオ
参加人数:A7人,B8人

粘土でお絵かきしよう!

日時:6月11日(土)
Aコース 10:30~12:00
Bコース 14:00~15:30

講師:市毛早矢香(造形講師)
担当:桜庭瑠実,園田泰士,泉 桐子
参加費:1,500円

対象:小学校1・2・3年生
会場:PLOT 48 スタジオ
参加人数:A8人,B8人

カラービニールのお洋服をつくろう

日時:7月2日(土)
Aコース 10:30~12:00
Bコース 14:00~15:30

講師:うめぐみ(造形ワークショップユニット)
担当:桜庭瑠実,園田泰士,泉 桐子
参加費:1,500円
対象:幼稚園・保育園の年長児とその保護者
会場:PLOT 48 スタジオ
参加人数:A17人,B12人

見て、聞いて、体験!たぎ美学

日時:10月1日(土) 10:30~12:00
講師:寒川 一(焚美の案内人)

担当:木下貴博,園田泰士,北川裕介
参加費:1,000円
対象:小学校1~6年生
会場:PLOT 48 スタジオ,中庭
参加人数:9人

ちいさな秋の日本画体験

日時:10月29日(土) 10:30~12:30
講師:泉 桐子
担当:桜庭瑠実,園田泰士

参加費:1,500円
対象:小学校4・5・6年生
会場:PLOT 48 スタジオ
参加人数:9人

大きなお面をつくろう!

【あんなかお・こんなかお・どんなかお?】
日時:2月25日(土) 10:30~12:00
講師:こいちりょうじ(こども造形研究者)

担当:桜庭瑠実,園田泰士,泉 桐子
参加費:1,500円
対象:小学校1・2・3年生
会場:PLOT 48 スタジオ
参加人数:9人

◎12歳以上対象

着物地で作る花

日時:6月4日(土) 13:30~16:30
講師:伊東純子(アーティスト/デザイナー)
担当:森 未祈
参加費:3,500円
対象:12歳以上
会場:PLOT 48 スタジオ
参加人数:8人

新聞紙粘土で“やどかり”をつくりましょう

日時:8月6日(土) 13:30~16:30
8月27日(土) 13:30~15:30

講師:遠藤良亮(造形作家)
担当:木下貴博
参加費:3,500円
対象:12歳以上
会場:PLOT 48 スタジオ
参加人数:3人,3人

村上早トーク「銅板を傷つけながら考えること」

日時:9月24日(土) 14:00~15:30
出演:村上 早(版画家/NAP Wall 出品作家)
聞き手:大澤紗蓉子
進行:担当:森 未祈
参加費:無料
対象:12歳以上
会場:PLOT 48 シアター
参加人数:32人

五感で学ぶ焚美学

日時:10月1日(土) 14:00~15:30
講師:寒川 一(焚美の案内人)
担当:木下貴博,北川裕介
参加費:1,000円
対象:12歳以上
会場:PLOT 48 スタジオ,中庭
参加人数:13人

walking practice

一ヶアではない共存のためのトレーニング

日時:11月15日(火) 14:00~16:00
講師:檜皮一彦(アーティスト)
連携:横浜国立大学教育学部
担当:北川裕介,木下貴博,森 未祈
参加費:無料
対象:15歳以上
会場:PLOT 48 シアター他
参加人数:19人

子どものアトリエ・市民のアトリエ

はじめての糸紡ぎ

日時:12月3日(土)
Aコース 10:30~12:30
Bコース 14:00~16:00
講師:REIKOMONO(糸紡ぎ作家)
担当:木下貴博
参加費:3,000円
対象:12歳以上
会場:PLOT 48 スタジオ
参加人数:A11人,B12人

浦川大志トーク

「イメージと制作について」
日時:1月21日(土) 14:00~16:00
出演:浦川大志(アーティスト/NAP Wall 出品作家)
聞き手:南島 興
進行・担当:北川裕介
参加費:無料
対象:12歳以上
会場:PLOT 48 シアターおよびオンライン
参加人数:20人

私とdrawing

日時:2月4日(土) 14:00~16:00
講師:川内理香子(アーティスト)
担当:北川裕介
参加費:2,000円
対象:12歳以上
会場:PLOT 48 スタジオ
参加人数:9人

教師のためのワークショップ 【オンライン・ワークショップ】

Aコース:えのぐを中心とした描画について
Bコース:紙を中心とした造形・工作について
日時:1月14日(土)
Aコース 10:00~12:00
Bコース 14:00~16:00
講師:山崎 優(造形教育家)
担当:桜庭瑠実,園田泰士,泉 桐子
参加費:2,000円
参加人数:A25人,B21人

映像公開

「じっくりみる この一点」

担当:大塚真弓,森 未祈,北川裕介,坂本恭子
●マックス・エルンスト《少女が見た湖の夢》
●ジョアン・ミロ《花と蝶》
●中西夏之《コンパクト・オブジェ(卵)》
日時:3月17日(金) 公開

「どんな技法?」

担当:桜庭瑠実,園田泰士,泉 桐子
●岩絵具・水干絵具~日本画編
●胡粉~日本画編
日時:3月25日(土) 公開

横浜[出前]美術館

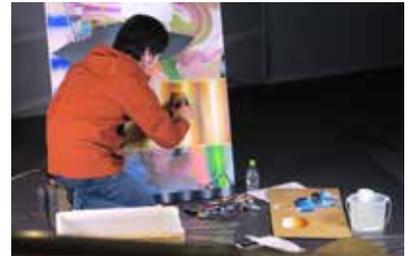
*地域社会や市民生活に貢献する事業 横浜市
[出前]美術館 参照(p.25)

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

*地域社会や市民生活に貢献する事業 横浜市
芸術文化教育プラットフォーム 参照(p.25)



はじめての糸紡ぎ



浦川大志トーク「イメージと制作について」



私とdrawing



教師のためのワークショップ



「じっくりみる この一点」



「どんな技法?」撮影風景

市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業

市民協働



教育プロジェクトボランティア



教育プロジェクトボランティア

横浜市、学校、福祉関係機関、市民団体、ボランティア団体、NPO法人、企業などと協働し、美術館教育普及事業の活動を社会に広げます。特に、既存の市民団体、ボランティア団体の活動などとリンクさせることで、美術館の活動への支援を広げるよう努めています。

ボランティア

教育プロジェクトボランティア

活動期間：4月1日(金)-2月28日(火)

登録人数：47人

参加人数：延べ795人

主な活動内容

・研修会・勉強会	13回
・ヨコハマ・アートマップ	11回
・描かれた物語	16回
・丹下健三勉強会	11回

企業によるボランティア

子ども向け木工体験キット用パーツ作り

協力企業：NTTテクノクロス株式会社

(Heart to Art参加企業)

日時：5月28日(土) 13:00~17:00

担当：襟川文恵

参加人数：10人

地域社会や市民生活に貢献する事業

美術館における教育普及事業を、地域社会や市民生活に貢献する事業に発展させていきます。学校教育連携事業、アウトリーチ、人材育成事業、環境啓発事業等を行っています。

アウトリーチ事業等

◎近隣大学・文化施設対象

横浜国立大学連携

横浜国立大学教育学部連携「ウォープラ部」

日時:10月4日(火) 13:30~16:00

10月25日(火) 13:30~16:00

講師: 檜皮一彦(アーティスト)

担当: 北川裕介, 木下貴博, 森 未祈

会場: 横浜国立大学教育学部(10月4日)

PLOT 48 シアター(10月25日)

参加人数: 9人, 10人

※関連事業「walking practice ーケアではない共存のためのトレーニングー」を実施。

*教育普及事業 鑑賞サポート やどかりプログラム 参照(p.21)

横浜中央図書館連携

第4回ヨコハマライブラリースクール

「ヨコハマトリエンナーレの過去と未来」

日時:1月28日(土) 14:00~16:00

講師: 木村絵理子

会場: 横浜市立中央図書館 地下1階ホール

参加人数: 55人

◎福祉施設対象

若者支援プログラム

日時:3月16日(木) 13:30~15:45

担当: 端山聡子, 古藤 陽, 大塚真弓

会場: よこはま南部ユースプラザ

ユースサポート・ユースワークふじさわ

参加人数: 5人, 10人

シンポジウム「若者支援プログラムを解体し、創造する~9年間の歩みとこれから~」

*教育普及事業 鑑賞サポート 若者支援プログラム 参照(p.20)

アウトリーチ

日時:3月27日(月) 14:00~16:00

講師: 山崎 優(造形教育家)

担当: 桜庭瑠実, 園田泰士, 泉 桐子

会場: 横浜市西部地域療育センター

参加人数: 20人

◎近隣企業対象

ビジネスパーソン向け体験型ワークショップ

「アイマスクで粘土造形ー遮断される感覚、拓かれる感覚」

日時:7月22日(金) 10:00~12:30

講師: 木下貴博

小島健嗣(イノベーションアーキテクト/デザイナー/design MeME合同会社代表)

コーディネート: 襟川文恵

担当: 北川裕介, 森 未祈

開催協力: EDEN

会場: 神奈川大学みなとみらいキャンパス

参加人数: 17人

横浜未来機構アイデア創出ワークショップ

「アイマスクで粘土造形ー閉ざされる感覚、拓かれる感覚」

日時:11月19日(土) 13:20~16:45

講師: 木下貴博

小島健嗣(イノベーションアーキテクト/デザイナー/design MeME合同会社代表)

コーディネート: 襟川文恵

担当: 北川裕介, 森 未祈, 園田泰士

開催協力: EDEN

会場: 京セラみなとみらいリサーチセンター 6F INNOVATION SQUARE

参加人数: 10人

横浜美術館法人向け芸術支援プログラム

Heart to Art 参加企業特典

※Heart to Artについては 外部と連携した事業 参照(p.32)

①株式会社野村総合研究所

●「アイマスク粘土造形ワークショップ」

日時:5月25日(水) 17:20~19:00

12月13日(火) 17:20~19:00

講師: 木下貴博

コーディネート: 襟川文恵

担当: 北川裕介

会場: 株式会社野村総合研究所内会議室

参加人数: 11人, 11人

●「対話しながらアートを楽しもう!」

日時:10月12日(水) 17:30~19:00

講師: 森 未祈

コーディネート: 襟川文恵

会場: オンライン

参加人数: 8人

●オンライントーク

「美術館学芸員の舞台裏: アートに寄り添う」

日時:1月25日(水) 17:30~19:00

講師: 八柳サエ

コーディネート: 襟川文恵

会場: 株式会社野村総合研究所内会議室/オンライン

参加人数: 18人

②ジャパンリアルエステイト投資法人

●アートレクチャー

「横浜美術館コレクションの世界~映像作品編~」

日時:8月31日(水) 18:15~19:30

講師: 松永真太郎

担当: 襟川文恵

会場: MMパークビル内会議室

参加人数: 37人

「横浜美術館コレクションの世界~リアリティとはなにか? ジョルジュ・ブラックと白髪一雄~」

日時:2月22日(水) 12:00~13:00

講師: 坂本恭子

担当: 襟川文恵

オンライン

参加人数: 34人

③横浜信用金庫

「子ども向け木工体験キット」提供

数量: 160セット

担当: 襟川文恵

キット製作: 桜庭瑠実, 園田泰士, 泉 桐子

④NTTテクノクロス株式会社

「子ども向け木工体験キット」提供

数量: 50セット

担当: 襟川文恵

キット製作: 桜庭瑠実, 園田泰士, 泉 桐子

◎横浜市芸術文化教育プラットフォーム

横浜市立笠間小学校

日時:9月20日(火)-22日(木)
講師:三ツ山一志(造形教育家)
担当:桜庭瑠実, 園田泰士, 泉 桐子
参加人数:68人, 56人, 79人

横浜市立共進中学校

日時:11月24日(木)・25日(金)
講師:菊地敦己(グラフィックデザイナー/アートディレクター)
担当:森 未祈
参加人数:72人, 63人

横浜市立領家中学校

日時:1月27日(金)
講師:松田 修(アーティスト)
担当:北川裕介, 森 未祈
参加人数:157人

横浜市立篠原中学校

日時:2月17日(金)
講師:千葉大二郎[硬軟](アーティスト)
担当:北川裕介
参加人数:210人

◎他館への協力

アーティゾン美術館コレクション展 特集コーナー「ピカソとミロの版画」

・市民のアトリエの版画道具・刷り見本の貸出
・解説パネル, 小冊子用画像撮影への協力
担当:桜庭瑠実, 北川裕介

横浜[出前]美術館

都筑区

学芸員によるレクチャー

「日本写真、事始め～幕末明治期の写真」

日時:4月16日(土) 14:00～15:30
講師:松永真太郎
担当:長谷川珠緒, 木村絵理子, 大澤紗蓉子
主催:横浜美術館, 横浜市歴史博物館
参加費:無料
会場:横浜市歴史博物館 講堂
参加人数:73人

旭区

学芸員によるレクチャー

「現代工芸の世界—素材と技法を手がかりに」

日時:6月18日(土) 14:00～15:30
講師:長谷川珠緒
担当:木村絵理子, 大澤紗蓉子
参加費:無料
対象:12歳以上
会場:横浜市旭区民文化センター サンハートホール
参加人数:14人

南区

エデュケーターによるワークショップ

「モノタイプ版画に挑戦!」

日時:6月25日(土) 13:30～15:00
講師:桜庭瑠実
担当:園田泰士, 泉 桐子
参加費:無料
対象:小学生1・2・3年生とその保護者
会場:横浜市吉野町市民プラザ 2階 ギャラリー
参加人数:10人

港南区

学芸員によるレクチャー

「横浜美術館コレクションからみる戦後日本の写真」

日時:7月23日(土) 14:00～15:30
講師:大澤紗蓉子
担当:長谷川珠緒, 木村絵理子
参加費:無料
対象:12歳以上
会場:横浜市港南区民文化センター ひまわりの郷 会議室 AB
参加人数:18人

保土ヶ谷区

エデュケーターによるワークショップ

「モノタイプ版画に挑戦!」

日時:8月4日(木) 13:30～15:00
講師:桜庭瑠実
担当:園田泰士, 泉 桐子
参加費:無料
対象:小学生1・2・3年生とその保護者

会場:横浜市岩間市民プラザ ホール
参加人数:25人

神奈川区

エデュケーターによるレクチャー

「アートでめぐる横浜の街—神奈川区編—」

日時:10月22日(土) 13:30～15:00
講師:古藤 陽
担当:大塚真弓, 端山聡子
参加費:無料
対象:12歳以上
会場:横浜市神奈川区民文化センター かなつくホール 音楽ルーム
参加人数:31人

港北区

学芸員によるレクチャー

「ミュージアム・コレクションの未来」

日時:10月29日(土) 14:00～15:30
講師:木村絵理子
担当:長谷川珠緒, 大澤紗蓉子
後援:慶應義塾大学教養研究センター
参加費:無料
対象:12歳以上
会場:慶應義塾大学 日吉キャンパス 来往舎1階シンポジウムスペース
参加人数:65人

泉区

エデュケーターによるワークショップ

「日本画体験『かんざんさんのはっぱ』」

日時:11月12日(土) 13:30～15:00
講師:泉 桐子
担当:園田泰士, 森 未祈
参加費:無料
対象:小学生1・2・3年生とその保護者
会場:横浜市泉区民文化センター テアトルフォンテ 創作室
参加人数:14人

中区

エデュケーターによるレクチャー

「アートでめぐる横浜の街—中区編—」

日時:1月28日(土) 13:30～15:00
講師:大塚真弓
担当:古藤 陽, 端山聡子
共催:大佛次郎記念館
参加費:無料
対象:12歳以上
会場:大佛次郎記念館 会議室
参加人数:19人

美術品の収集、保存・修復、貸出

収集

美術資料収集方針

横浜美術館では、次のような方針に基づき作品を収集しています。(令和5年3月現在13,510件所蔵)

- 1 西洋文化の流入窓口であった横浜開港当時からヨーロッパ近代美術と日本近代美術の相互影響の足跡がたどれる作品
- 2 (1) 現代美術の展開と流れの鳥瞰に役立つ作品
(2) 今日の美術が内包する問題点を明確に表している作品
(3) 近代美術の一分野としての写真の代表作品
(4) 現代の市民生活に密着した分野(デザイン、工芸、建築、ビデオ)の代表作品
- 3 横浜ゆかりの代表的作家の作品
(1) 岡倉天心との関係を含めて、原三溪に庇護された、日本近代美術の発展に寄与した作家の作品
(2) その他、横浜ゆかりの代表的作家の作品
- 4 以上の美術に関連する資料

収集実績

分野別作品収集件数 ()内が令和4年度収集点数

	日本画	油彩その他の絵画	版画	水彩・素描	彫刻・立体	工芸	写真・映像	作品外資料*	合計
購入	164 (0)	200 (1)	1,614 (0)	63 (0)	47 (0)	82 (0)	3,206 (0)	0 (0)	5,376 (1)
寄贈	796 (3)	354 (18)	2,127 (191)	1,808 (48)	92 (23)	124 (19)	1,221 (4)	1,612 (30)	8,134 (336)
合計	960 (3)	554 (19)	3,741 (191)	1,871 (48)	139 (23)	206 (19)	4,427 (4)	1,612 (30)	13,510 (337)

*「作品外資料」とは、美術作品そのものではなく、例えば、書簡のように画家・作家の足跡、交友関係がたどれる資料や、作品の制作に使用した道具のように、制作の背景を明らかにする資料です。(「横浜市美術資料収集方針」の4、「第1項から第3項に関連する資料」に該当します。)

*上記点数に寄託作品は含まれません。

令和4年度の主な収集作品

作家	作品名
宇佐美圭司	オールド・ファッション・アーケード
榎本和子	記憶の時
加納光於	波
パブロ・ピカソ	Figure Noire 黒い人物
郭 仁植	Work 82-13
多田美波	雫
藤田喬平	飾篭 春千里

*令和4年度の全収集作品については、「横浜美術館収蔵品目録」(令和5年度発行予定)を参照ください。

保存・修復

分野	作家名	作品名	収蔵品番号	修復内容	
日本画	小茂田青樹	《ボンボンダリヤ》	83-JP-002	剝離止め、シミ除去、波打ちの平滑化、裏打ち紙の新調	
	横山大観	《雲揺ぐ》	2000-JP-008	剝離止め、シミ除去、波打ちの平滑化、裏打ち紙の新調	
	荒井寛方	《南無観世音菩薩》	2011-JP-001	汚れ・シミ除去、皺や折れの平滑化、裏打ち紙の新調、本紙と表具の再固定	
	下村観山	《老子 画稿》	2011-JP-040	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《聖徳太子孝養像 画稿》	2011-JP-046	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《聖徳太子孝養像 画稿》	2011-JP-047	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《洗硯図 画稿》	2011-JP-050	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《帰去来 画稿》	2011-JP-053	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《帰去来 画稿》	2011-JP-054	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《東坡先生 画稿》	2011-JP-055	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《高士(仮題) 画稿》	2011-JP-057	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《老子 画稿》	2011-JP-099	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《高士騎驢図 画稿》	2011-JP-108	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《月下弹琴 画稿》	2011-JP-116	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《高士(陶淵明) 画稿》	2011-JP-119	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《老莱子(仮題) 画稿》	2011-JP-143	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《舟子 画稿》	2011-JP-148	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《稚児文殊 画稿》	2011-JP-154	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《酔李白(仮題) 画稿》	2011-JP-165	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《石筆張弓 画稿》	2011-JP-166	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《南泉斬猫 画稿》	2011-JP-170	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《石筆張弓 画稿》	2011-JP-171	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
		《丹霞 画稿》	2011-JP-173	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち	
	油彩その 他の絵画	岡田謙三	《灰色の静物》	82-OJ-010	剝離止め、クリーニング、充填・補彩、額装の改良
		江見絹子	《象徴》	88-OJ-010	剝離止め、クリーニング、タックスの錆除去、充填・補彩、額装の改良
		斎藤義重	《ゼロイスト(原作:ゼロイスト)》	93-OJ-009	クリーニング、額装の改良
小牧源太郎		《婚姻図(高砂や)》	2016-OJ-002	クリーニング、画面光沢の調整、タックス錆の除去、額装の改良	
高田保雄		《夕暮れのニューグランドホテル》	2021-OJ-004	剝離止め、クリーニング、カビ跡の除去	
兵藤和男		《古樹新緑》	2021-OJ-008	額装の改良	
マックス・エルンスト		《少女が見た湖の夢》	85-OF-002	額装の改良	
版画	小林ドンゲ	《酔ふ男》	2020-PRJ-003	クリーニング、脱酸性化処置、シミ・変色の低減、フラットニング、ヒンジの新調	
		《真夜中の仕事部屋》	2020-PRJ-007	クリーニング、テープ接着剤除去、脱酸性化処置、シミ・変色の低減、フラットニング、ヒンジの新調	
		《孤独な男》	2020-PRJ-008	クリーニング、脱酸性化処置、シミ・変色の低減、フラットニング、ヒンジの新調	
		《エル・サルバドル[あるいは《サロン》]》	2020-PRJ-012	クリーニング、紙片・接着剤除去、欠損部分の低減処置、脱酸性化処置、ヒンジの新調	
		《雨月物語より 浅茅が宿 no.3 冬》	2020-PRJ-013	クリーニング、紙片除去、脱酸性化処置、シミ・変色の低減、フラットニング、ヒンジの新調	
	パブロ・ピカソ	《母親の身づくろい》	93-PRF-040	マット装	
	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	《浜辺にて、ベルヌヴァル》	2019-PRF-132	汚れ・テープ・接着剤除去、フラットニング	
	シュザンヌ・ヴァラドン	《樹下の裸婦たち》	2019-PRF-142	汚れ・テープ・接着剤除去、フラットニング	

保存・修復

分野	作家名	作品名	収蔵品番号	修復内容	
版画	エドゥアール・マネ	《マルガリータ王女》	2019-PRF-081	マット装	
水彩・素描	前田青邨	《奎堂先生 小下図(15点)》	87-DRJ-001-01 ~015	古い台紙からの取り外し、汚れ除去、剥離止め、裏打ち紙の新調	
		三宅克己	《横浜伊勢佐木町通り》	2015-DRJ-001	額装の改良
		《水郷夏景》	2021-DRJ-022	額装の改良	
	高田保雄	《山下町の運河》	2021-DRJ-002	額装の改良	
	ジョージ・クローゼン	《廃墟の壁》	83-DRF-002	亀裂の固着、古い台紙の除去、フラットニング、額装の改良	
	ウジェーヌ・ドラクロワ	《人物習作》	83-DRF-00F	クリーニング、古い台紙・接着剤の除去、フラットニング、額装の改良	
	アルフレッド・イースト	《東京の雨の日》	83-DRF-00G	付着物除去、古い台紙からの取り外し、フラットニング、額装の改良	
	サルバドール・ダリ	《ガラスの測地学的肖像》のための素描	88-DRF-002	額装の改良	
	写真・映像	川崎亀太郎	《アルソーラス》	95-PHJ-020	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去
			《労働》	95-PHJ-021	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去
《吹雪》			95-PHJ-026	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《朝の光》			95-PHJ-027	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《風景》			95-PHJ-028	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《子供と犬》			95-PHJ-030	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《渡川》			95-PHJ-031	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《舞踏》			95-PHJ-032	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《横顔》			95-PHJ-033	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《牛》			95-PHJ-034	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《牛》			95-PHJ-035	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《ソラリゼーション》			95-PHJ-036	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《踊る》			95-PHJ-037	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《馬》			95-PHJ-03J	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《旅》			95-PHJ-04C	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
《顔》			95-PHJ-04E	古いマット装からの取り外し、テープ・接着剤除去	
奈良原一高			《無国籍地》ほか 計128点	2021-PHJ-006 ~133	マット装

貸出

貸出件数・点数

貸出総件数:7件(うち海外0件)

貸出総作品数:69点

貸出実績

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品(資料)名・収蔵品番号	
「横浜美術館所蔵 日本美術院の作家たち展 大観・観山から御舟まで」 郡山市立美術館 令和4年4月23日(土)-6月5日(日)	荒井寛方	《稚児文殊》(87-JP-001) 《観世音菩薩》(86-JP-00C)	
	今村紫紅	《平親王》(88-JP-011) 《伊達政宗》(88-JP-013) 《潮見坂》(87-JP-004)	
	太田聴雨	《飛天》(88-JP-026)	
	小倉遊亀	《良夜》(84-JP-005)	
	小茂田青樹	《ボンボンダリヤ》(83-JP-002)	
	堅山南風	《鮒 魚楽図ノ内 其一》(94-JP-001-01) 《朱ピンタ 魚楽図ノ内 其二》(94-JP-001-02) 《蜻蜒 魚楽図ノ内 其三》(94-JP-001-03) 《イダ 魚楽図ノ内 其四》(94-JP-001-04) 《鱈魚 魚楽図ノ内 其五》(94-JP-001-05)	
		川合玉堂	《鶺鴒》(85-JP-003)
		木村武山	《堀河の静》(92-JP-002) 《観世音寺炎上之図》(93-JP-006)
		小林古径	《竹取物語 昇天図(画稿)》(87-JP-008) 《草花》(86-JP-048) 《菓子》(2004-JP-001)
			下村観山
	寺崎広業		
	中村岳陵	《砂浜》(85-JP-014)	
	速水御舟	《水仙図》(84-JP-024) 《麦》(2000-JP-006)	
	菱田春草	《夏汀》(86-JP-052)	
	平櫛田中	《岡倉天心胸像》(88-SJ-007) 《陶淵明(帰去来)》(97-SJ-001) 《破邪》(97-SJ-002)	
		前田青邨	《蝦蟇 鉄拐》(86-JP-053) 《六歌仙》(86-JP-055) 《奎堂先生》(83-JP-008)
			松本楓湖
	水野年方		《御殿女中図》(98-JP-003)
	安田靉彦	《聖日蓮之門徒》(2002-JP-001) 《松風》(96-JP-002) 《窓》(84-JP-025)	
		山村耕花	《婦女愛禽図》(89-JP-006)
		横山大観	《草廬三顧図》(85-JP-02C)

貸出

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品(資料)名・収蔵品番号
(承前)	横山大観	《虎溪三笑》(85-JP-021)
		《霊峰不二》(86-JP-058)
		《江上舟遊》(83-JP-010)
		《雲揺ぐ》(2000-JP-008)
「ミロ展—日本を夢みて」 愛知県美術館 令和4年4月29日(金祝)-7月3日(日) 富山県美術館 令和4年7月16日(土)-9月4日(日) ※開館5周年記念 ※令和3年度にBunkamura サ・ミュージアムで開催後、巡回	ジョアン・ミロ	《花と蝶》(88-OF-008)
「没後50年 鎗木清方展」 京都国立近代美術館 令和4年5月27日(金)-7月10日(日) ※令和3年度に東京国立近代美術館で開催後、巡回	鎗木清方	《遊女》(96-JP-001)
		《春のななくさ》(93-JP-005)
		《暮雲低迷》(85-JP-002)
特別展「綺羅めく京の明治美術—世界が驚いた帝室技芸員の神業」 京都市京セラ美術館 令和4年7月23日(土)-9月19日(月祝)	宮川香山(初代)	《高浮彫桜二群鳩大花瓶》 (2017-CJ-K-002 寄託作品[田邊哲人コレクション])
		《高浮彫牡丹二眠猫覚醒大香炉》 (2018-CJ-K-001 寄託作品[田邊哲人コレクション])
		《釉下彩白盛鶏図大花瓶》 (2017-CJ-K-005 寄託作品[田邊哲人コレクション])
「版画×写真—1839-1900」 町田市立国際版画美術館 令和4年10月8日(土)-12月11日(日)	ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット	《植物標本のフォトグラム(ネガ)》(83-PHF-08F)
		《シダのフォトグラム(ネガ)》(83-PHF-10G)
		《アントワーヌ・フランソワ・ジャン・クロードの肖像》 (83-PHF-09E)
		《アントワーヌ・フランソワ・ジャン・クロードの肖像 (ネガ)》(83-PHF-09I)
	ロベール・ドマシー	《ヴィーナスの愛》(84-PHF-024)
		《音楽のレッスン》(84-PHF-025)
	アンリ=ヴィクトール・ルニョー	《帽子をつけた若い女》(82-PHF-269)
		《セルフ・ポートレート》(82-PHF-277)
「面構 片岡球子展 たちむかう絵画」 そごう美術館 令和5年1月1日(日祝)-1月29日(日)	片岡球子	《面構 浮世絵師鈴木春信と博物学者平賀源内》 (2008-JP-002)
		《面構 浮世絵師喜多川歌麿と版元蔦屋重三郎》 (2008-JP-003)
		《面構 浮世絵師鳥居清長と版元榮壽堂主人西村屋 与八》(2008-JP-004)
「憧憬の地 プルターニューモネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た 異郷」 国立西洋美術館 令和5年3月18日(土)-6月11日(日)	ポール・ゴーギャン	《海のドラマ、プルターニユ(通称「ヴォルピニの連 作」より)》(92-PRF-022)
	長谷川 潔	《坐る若きプルターニユの女》(96-PRJ-043)
		《うづくまる若きプルターニユの女》(96-PRJ-044)

広報の活動、外部と連携した事業

広報

個別の展覧会や事業ごとの宣伝だけでなく、横浜市の芸術拠点としての「横浜美術館」の発信、芸術文化の振興のために、広報を重視し、戦略的に取り組んでいます。

私たちが目指している方向とそのための取組み、さまざまな活動の内容とその成果も含め、横浜美術館を支えていただいている市民やメディアそして社会との信頼と支援の関係性をより強固に形成してゆきたいと考えます。そのためにウェブサイトを中心に印刷物やメールニュース、ソーシャルメディアなど、さまざまな媒体を活用した迅速かつ計画的な発信に取り組んでいます。

また、横浜美術館を取り巻く社会の構造、また市民の生活行動や芸術文化に対するニーズなども今後大きく変化していきます。それらを分析、把握し、私たちの事業や管理運営活動に反映させ、展開していくことが必要です。マーケティング戦略の再構築をすべく、取り組んでいます。

露出件数

新聞	美術雑誌・一般雑誌・FP	ウェブ	TV・ラジオ	その他	海外	合計
31	59	650	6	6	2	754

全館広報

ウェブサイト

アクセス数：1,187,657pv
(令和5年3月31日現在)

Twitter

フォロワー数：145,455
(令和5年3月31日現在)

メールニュース

登録者数：9,448人
(令和5年3月31日現在)
発行数：定期便12回、臨時便1回

◎ウェブを活用した全館広報

休館中発信事業

- ①note
 - ・18区アウトリーチレポート
 - ・職員インタビュー, 今月の1点
 - ・18区ゆかりの作品紹介
- ②Twitter／Facebook
 - ・横浜美術館クイズ
 - ・休館中日記
 - ・横浜美術館建築のヒミツ

神奈川新聞コレクション紹介連載

「アート彩時記」
全13回(令和5年1月終了)

◎一般参加型プロジェクト

「みんなと、いろいろ、みなという」
—100人の個性で彩る仮囲いプロジェクト—

◎リニューアルに向けた取組み

ミュージアム・メッセージ(日英)の制作
リニューアルロゴの開発

◎外部講演

茨城県博物館協会加盟館研修会
「横浜美術館におけるSNS・オウンドメディアの活用について」
日時：3月2日(木) 13:30～15:40
講師：藤井聡子

外部と連携した事業

文化芸術創造都市「横浜」の中心的な施設として、横浜市の都市戦略である創造都市形成や、シティ・セールス、観光プロモーションと連携した事業を展開しています。また、横浜市芸術文化振興財団は、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂、横浜にぎわい座、横浜赤レンガ倉庫1号館などを管理運営しています。それぞれに専門分野がありますが、社会課題への対応や子どもへの取組みなどの共通の課題については、横断的な検討体制により連携して実施します。



コレクション鑑賞アプリ



「時空を超えてアートでつながる横浜美術館コレクション」



「MMパークビル」エントランス

外部との連携

株式会社野村総合研究所

コレクション鑑賞アプリ「みるみるアート
きみはだれ？」開発

担当：襟川文恵, 南島 興, 森 未祈

監修：横浜美術館

形式：ウェブ・アプリケーション

料金：無料

キャノン・マーケティングジャパン, 博報堂

没入型オンライン鑑賞サービス「ZOZO OOM
ART MUSEUM」協力

「時空を超えてアートでつながる 横浜美術館
コレクション」

講師：八柳サエ

担当：襟川文恵, 庄司尚子

①アントニオ・ベアト《遣欧使節とスフィンクス》

日時：3月3日(金) 18:30~19:00

②下村観山《小倉山》

日時：3月11日(土) 10:00~10:30

企業によるボランティア

「子ども向け木工体験キット用パーツ作り」

* 市民協働、地域社会や市民生活に貢献する
事業 市民協働 参照(p.23)

ジャパンリアルエステイト投資法人

三菱地所プロパティマネジメント株式会社
「MMパークビル」エントランスにおける横浜
美術館コレクション映像作品および作品紹
介動画の放映

監修：松永真太郎

担当：襟川文恵, 桜庭瑠実

放映内容：

①石田尚志《渦巻く光》2015年

②じっくりみる この一点

「ジョルジュ・ブラック《画架》」

③じっくりみる この一点

「白髪一雄《梁山泊》」

日時：8月2日(火)~3月31日(金)

7:00~21:00

横浜未来機構

アイデア創出ワークショップ

「アイマスクで粘土造形一閉ざされる感覚、
拓かれる感覚」

* 地域社会や市民生活に貢献する事業 アウ
トリーチ事業等 参照(p.24)

Heart to Art(企業向け芸術支援プログラム)

Heart to Artは、企業からの支援により美術の普及活動や市民へのサービスを充実させるプログラムです。企業と美術館がそれぞれのノウハウを活かすことにより幅広い展開を目指しています。

参加企業：5社

NTTテクノクロス株式会社

株式会社野村総合研究所

ジャパンリアルエステイト投資法人

ジョイテック株式会社

横浜信用金庫

参加企業との取組み

アウトリーチ事業等

* 地域社会や市民生活に貢献する事業 アウトリーチ事業等 参照(p.24)

来館者へのおもてなし



オリジナルグッズ



オリジナルポストカード

ミュージアムショップとカフェ

ミュージアムショップでは、横浜美術館のコレクションをデザインしたオリジナルグッズ・ポストカードや過去の展覧会図録などを取り揃えています(オンラインショップのみ)。休館中の令和4年度は、令和3年度に引き続き改修後のショップおよびカフェについて検討を行い、事業者を選定しました。

オンラインショップ

約200点の商品を掲載。

国際的な交流・発信

ヨコハマトリエンナーレ2023への取り組み

調査・打合せのための来館

キャロル・インホワ・ルー
9月12日(月)-26日(月)
3月20日(月)-30日(木)

リウ・ティン

11月21日(月)-12月12日(月)
3月20日(月)-30日(木)

海外出張

蔵屋美香

カッセル,ベルリン(ドイツ)
ドクメンタ,ベルリン・ビエンナーレ調査
横浜トリエンナーレ出品候補作家・作品の調査
6月15日(水)-22日(水)

イスタンブール(トルコ),リヨン(フランス),
ヴェネツィア(イタリア)
イスタンブール・ビエンナーレ,リヨン・ビエ
ンナーレ,ヴェネチア・ビエンナーレ調査
横浜トリエンナーレ出品候補作家・作品の調査
9月30日(金)-10月10日(月祝)

シャルジャ(アラブ首長国連邦),コチ(インド),
シンガポール(シンガポール)
シャルジャ・ビエンナーレ,コチ=ムジリス・
ビエンナーレ,シンガポール・ビエンナーレ調査
横浜トリエンナーレ出品候補作家・作品の調査
2月6日(月)-17日(金)

帆足亜紀

カッセル,ベルリン(ドイツ)
ドクメンタ,ベルリン・ビエンナーレ調査
国際展運営の調査
6月15日(水)-22日(水)

イスタンブール(トルコ),プリシュティナ(コ
ソボ)
イスタンブール・ビエンナーレ調査
IBA理事会・総会出席
マニフェスタ調査
国際展運営の調査
10月14日(金)-22日(土)

シャルジャ(アラブ首長国連邦),コチ(インド),
シンガポール(シンガポール)
シャルジャ・ビエンナーレ,コチ=ムジリス・
ビエンナーレ,シンガポール・ビエンナーレ調査
国際展運営の調査
2月6日(月)-16日(木)

木村絵理子

カッセル,ベルリン(ドイツ)
ドクメンタ,ベルリン・ビエンナーレ調査
横浜トリエンナーレ出品候補作家・作品の調査
9月3日(土)-11日(日)

パリ,リヨン(フランス),ヴェネツィア(イタリ
ア)
アンスティチュ・フランセ主催キュレーター
招聘プログラム参加
パリ,リヨン・ビエンナーレ,ヴェネチア・ビエ
ンナーレ視察
横浜トリエンナーレ出品候補作家・作品の調査
10月11日(火)-22日(土)

コチ(インド),シンガポール(シンガポール)
コチ=ムジリス・ビエンナーレ,シンガポール・
ビエンナーレ調査
横浜トリエンナーレ出品候補作家・作品の調査
2月10日(金)-16日(木)

片多祐子

ニューヨーク,ミネアポリス,ボストン(アメリカ)
再開館後の企画展に関わる調査
11月18日(金)-24日(木)

日比野民蓉

ソウル(韓国)
再開館後の企画展に関わる調査
2月19日(日)-23日(木祝)

国際シンポジウム

IEO アニュアル・ミーティング

オンライン
5月4日(水祝)-6日(金)
参加者:帆足亜紀

CIMAM アニュアル・ミーティング(スペイン)

オンライン
11月11日(金)-13日(日)
参加者:帆足亜紀

IBA 理事会・総会(コソボ)

10月19日(水)-20日(木)
参加者:帆足亜紀

改修後の再オープンを見据えた取組み

令和3年度に引き続き、リニューアルオープンに向けた取組みを行いました。

「コレクションの魅力発信プロジェクト」

コレクション作品画像ウェブサイト公開

公開作品数：新収蔵品を含む合計13,250点

基礎情報(作品タイトル、材質技法、寄贈者名等)のデータ整備及び英訳

英訳完了数：4,503点

学芸員執筆の平易な表現による作品解説及び英訳

公開点数：250点以上(英訳完了分)

「全体デザインプロジェクト」

建築家やデザイナーと協働した「はとばエリア(仮称)」の空間構成と調度什器等の設計検討

・家具什器のデザイン・設計

・動線・サイン計画

・インクルーシブデザインワークショップ

日時：9月29日(木) 10:00～12:30

10月2日(日) 14:00～16:30

会場：PLOT 48

「ウェブサイト リニューアルプロジェクト」

・基本デザイン、ディレクトリマップを完成

・外国人観光客を魅了するコンテンツの制作

資料

入館者数・収支

◎入館者数

経年推移

平成元年度	1,127,386人	平成13年度	862,895人	平成25年度	1,058,689人
平成2年度	990,818人	平成14年度	372,395人	平成26年度	529,748人
平成3年度	555,276人	平成15年度	780,928人	平成27年度	533,750人
平成4年度	541,465人	平成16年度	331,873人	平成28年度	584,725人
平成5年度	1,327,380人	平成17年度	1,527,694人	平成29年度	451,228人
平成6年度	528,995人	平成18年度	341,657人	平成30年度	964,028人
平成7年度	989,037人	平成19年度	413,410人	令和1年度	816,828人
平成8年度	344,239人	平成20年度	770,310人	令和2年度	206,626人
平成9年度	942,509人	平成21年度	540,047人	令和3年度	3,514人
平成10年度	278,954人	平成22年度	1,408,713人	令和4年度	2,701人
平成11年度	792,905人	平成23年度	459,716人		
平成12年度	1,082,553人	平成24年度	662,159人		(令和5年3月31日現在)

令和4年度度事業別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
鑑賞サポート	0	52	26	42	0	8	37	63	40	66	70	0	404
子どものアトリエ 市民のアトリエ	0	15	24	29	6	32	31	19	23	66	18	0	263
市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業	169	107	95	126	157	266	186	237	36	290	330	35	2,034
広報の活動、外部と連携した事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	169	174	145	197	163	306	254	319	99	422	418	35	2,701

◎収支

収入

指定管理料	877,734,000
利用料金収入	528,000
自主事業収入	2,060,324
雑入	53,104,160
合計	933,426,484

支出

人件費	311,834,686
事務費	16,964,892
事業費	177,632,295
大規模改修事業費	242,630,492
管理費	7,964,822
公租公課	40,965,182
事務経費	95,591,335
合計	893,583,704

役員等・組織図

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団役員

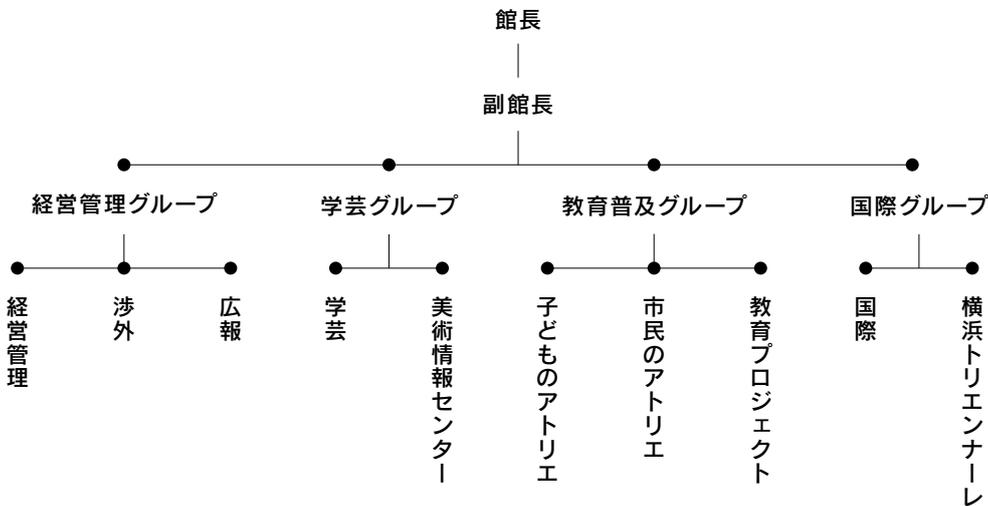
理事長	近藤誠一	元文化庁長官(代表理事)
専務理事	恵良隆二	(代表理事)
理事	永井由香	事務局長(業務執行理事)
	藤崎信裕	経営企画室長(業務執行理事)
	杉浦正美	総務グループ長(業務執行理事)
	蔵屋美香	横浜美術館 館長(業務執行理事)
	西澤 洋	横浜みなとみらいホール 総支配人(業務執行理事)
	小野晋司	横浜赤レンガ倉庫1号館 館長(業務執行理事)
	近澤弘明	株式会社近澤レース店 代表取締役社長
	柄 博子	独立行政法人国際交流基金 理事
	久野敦子	公益財団法人セゾン文化財団 常務理事 兼 事務局長
監事	齋藤貴司	税理士/ペイ・タックス税理士法人 代表社員
	只腰親和	横浜市立大学 名誉教授

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団評議員

秋岡 陽	フェリス女学院大学 名誉教授/学校法人フェリス女学院 理事
上野 孝	横浜商工会議所 会頭/上野トランステック株式会社 代表取締役会長
臼坂光二	日本放送協会横浜放送局 局長
柏崎 誠	元横浜市副市長
熊谷典和	株式会社テレビ神奈川 代表取締役社長
神部 浩	横浜市文化観光局 局長
須藤浩之	株式会社神奈川新聞社 代表取締役社長

(令和5年3月31日現在)

横浜美術館組織図



職員名簿

館長			蔵屋美香			
副館長・主席学芸員			柏木智雄			
経営管理グループ	経営管理	経営管理グループ長	大崎敬一			
		チームリーダー	普川由貴子			
		チームリーダー	藤井聡子			
		チームリーダー	吉川由紀子			
		担当リーダー	足立陽子			
		担当リーダー	襟川文恵			
			稲葉正子			
			小屋有紀子			
			近藤弘子			
			坂口周平			
			高柳美枝子			
			津島美由紀			
			中村美奈			
			長谷川鷹丞			
学芸グループ	学芸	学芸グループ長・主席学芸員	松永真太郎			
		学芸グループ長 兼 国際グループ長	帆足亜紀			
		チームリーダー・主任学芸員	内山淳子			
		チームリーダー・主任学芸員	木村絵理子			
		チームリーダー	庄司尚子			
		担当リーダー・主任学芸員	片多祐子			
		主任学芸員	中村尚明			
		主任学芸員	八柳サエ			
		レジストラ	相原佳奈子			
		学芸員	大澤紗薔子			
		学芸員／レジストラ	坂本恭子			
		学芸員	長谷川珠緒			
		学芸員	日比野民蓉			
		学芸員	南島 興			
			大沢知二			
		美術情報センター	司書	石川明子		
			司書	長谷川菜穂		
		教育普及グループ		教育普及グループ長	松井美鈴	
				子どものアトリエ	チームリーダー・主任エディケーター	桜庭瑠実
					担当リーダー・主任エディケーター	園田泰士
創作・造形エディケーター	泉 桐子					
市民のアトリエ	チームリーダー・主任エディケーター			木下貴博		
	創作・造形エディケーター			森 未祈		
	鑑賞教育エディケーター・学芸員			北川裕介		
教育プロジェクト	チームリーダー・主任エディケーター／主任学芸員			端山聡子		
	担当リーダー・主任学芸員・主任エディケーター			大塚真弓		
	鑑賞教育エディケーター・学芸員			古藤 陽		
国際グループ	国際	国際グループ長 兼 学芸グループ長	帆足亜紀			
		横浜トリエンナーレ	チームリーダー	里見有祐		
				山崎真弓		
				山本紀子		

46名（令和5年3月31日現在）

* 同職名の場合は、五十音順

条例・施行規則

横浜美術館条例

昭和63年9月24日
条例第44号

横浜美術館条例をここに公布する。
横浜美術館条例

(設置)

第1条 美術文化の振興と市民の美術に関する学習、創作活動等に寄与するため、横浜美術館(以下「美術館」という。)を横浜市西区に設置する。
(平元条例39・平10条例25・一部改正)

(事業)

第2条 美術館は、次の事業を行う。
(1) 美術品及び美術に関する資料(以下「美術品等」という。)の保管、調査研究、展示及び利用に関すること。
(2) 美術に関する情報の収集及び提供に関すること。
(3) 美術に関する調査及び研究に関すること。
(4) 美術に関する市民の創作活動等の指導及び助言に関すること。
(5) 美術に関する講演会、講習会、講座等の開催に関すること。
(6) 前各号の事業のための施設及び設備の提供に関すること。
(7) その他美術館の設置の目的を達成するために必要な事業

(施設)

第3条 前条に掲げる事業を行うため、美術館に次の施設を置く。
(1) 常設展示室、美術情報室、美術図書室及びグランドギャラリー
(2) 企画展示室、アトリエ及びレクチャーホール
(3) 駐車場
(平23条例23・一部改正)

(開館時間等)

第4条 美術館の開館時間及び休館日は、規則で定める。

(指定管理者の指定等)

第5条 次に掲げる美術館の管理に関する業務は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、指定管理者(同項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)に行わせるものとする。
(1) 美術館の施設の利用の許可等に関すること。
(2) 特別利用(第9条第1項に規定する特別利用をいう。)の許可等に関すること。
(3) 第2条に規定する事業の実施に関すること。
(4) 美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
(5) その他市長が定める業務
2 指定管理者は、横浜市の文化芸術の振興及び普及に関する施策の方針を理解し、美術に関する高度な専門的知識を有するとともに、美術品等の保管、調査研究及び展示、美術に関する講座等の開催その他美術文化の振興を図るための事業を自ら企画し、及び実施し、並びに市民による美術に関する学習、創作活動等に対する支援を行うものでなければならない。
3 指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を市長に提出しなければならない。
4 市長は、前項の規定により提出された書類を審査し、かつ、実績等を考慮して、美術館の設置の目的を最も効果的に達成できると認められたものを指定管理者として指定する。
5 市長は、指定管理者の候補者を選定しようとするときは、特別の事情があると認める場合を除き、第15条第1項に規定する横浜美術館指定管理者選定評価委員会(以下「選定評価委員会」という。)の意見を聴かななければならない。
(平17条例69・追加、平23条例48・一部改正)

(指定管理者の指定等の公告)

第6条 市長は、指定管理者の指定をしたとき、及びその指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公告しなければならない。
(平17条例69・追加)

(管理の業務の評価)

第7条 指定管理者は、市長が特別の事情があると認める場合を除き、その指定の期間において、第5条第1項各号に掲げる美術館の管理に関する業務について、選定評価委員会の評価を受けなければならない。
(平23条例48・追加)

(利用の許可)

第8条 第3条第2号に掲げる施設を利用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。
2 指定管理者は、前項の許可に美術館の管理上必要な条件を付けることができる。
3 指定管理者は、美術館の施設の利用が次のいずれかに該当する場合は、利用を許可しないものとする。
(1) 美術館における秩序を乱し、又は公益を害するおそれがあるとき。
(2) 美術館の設置の目的に反するとき。
(3) 美術館の管理上支障があるとき。
(4) その他指定管理者が必要と認めたとき。
4 第1項の許可の手続について必要な事項は、規則で定める。
(平10条例17・一部改正、平17条例69・旧第5条線下・一部改正、平23条例48・旧第7条線下)

(美術品等の特別利用の許可)

第9条 美術館に保管され、又は展示されている美術品等について、学術研究等のため、撮影、模写、模造、熟覧等(以下「特別利用」という。)をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。
2 指定管理者は、前項の許可に美術品等の保全上及び美術館の管理上必要な条件を付けることができる。
3 指定管理者は、特別利用が次のいずれかに該当する場合は、特別利用を許可しないものとする。
(1) 美術品等の保全上支障があるとき。
(2) 美術館の管理上支障があるとき。
(3) 美術館における秩序を乱し、又は公益を害するおそれがあるとき。
(4) その他指定管理者が必要と認めたとき。
4 第1項の許可の手続について必要な事項は、規則で定める。
(平17条例69・旧第6条線下・一部改正、平23条例48・旧第8条線下)

(利用料金)

第10条 常設展示室において、展示されている美術品等を観覧しようとする者は、指定管理者に対し、その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を支払わなければならない。
2 美術情報室において、美術情報機器を利用しようとする者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
3 レクチャーホールの利用について、第8条第1項の規定による許可を受けた者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
4 特別利用について、前条第1項の規定による許可を受けた者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
5 駐車場を利用する者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
6 第1項の利用料金にあつては別表第1に定める額の範囲内において、第2項の利用料金にあつては別表第2に定める額の範囲内において、第3項の利用料金にあつては別表第3に定める額の範囲内において、第4項の利用料金にあつては1点につき1回又は1日ごとに3,000円の範囲内において、前項の利用料金にあつては別表第4に定める額の範

条例・施行規則

団内において、指定管理者が市長の承認を得て定めるものとする。

7 第1項から第4項までの利用料金は、前納とする。ただし、必要があると認められる場合又は規則で定める場合は、指定管理者は、後納とすることができる。

8 第5項の利用料金は、後納とする。

(平10条例17・全改、平17条例69・旧第7条線下・一部改正、平23条例23・一部改正、平23条例48・旧第9条線下・一部改正)

(利用料金の減免)

第11条 指定管理者は、必要があると認められる場合又は規則で定める場合は、利用料金の全部又は一部を免除することができる。

(平10条例17・全改、平17条例69・旧第8条線下・一部改正、平23条例48・旧第10条線下)

(利用料金の不返還)

第12条 既納の利用料金は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合又は規則で定める場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。

(平10条例17・全改、平17条例69・旧第9条線下・一部改正、平23条例48・旧第11条線下)

(許可の取消し等)

第13条 指定管理者は、第8条第1項及び第9条第1項の規定により許可を受けた者が次のいずれかに該当する場合は、当該許可を取り消し、又は施設の利用若しくは特別利用を制限し、若しくは停止させることができる。

(1) 第8条第3項各号又は第9条第3項各号のいずれかに該当するに至ったとき。

(2) この条例若しくはこの条例に基づく規則の規定又はこれらに基づく指定管理者の処分に違反したとき。

(3) この条例に基づく許可の条件に違反したとき。

(平10条例17・一部改正、平17条例69・旧第10条線下・一部改正、平23条例48・旧第12条線下・一部改正)

(入館の制限)

第14条 指定管理者は、美術館の入館者が次のいずれかに該当する場合は、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

(1) 他の入館者に迷惑をかけ、又は迷惑をかけるおそれがあるとき。

(2) その他美術館の管理上支障があるとき。

(平17条例69・旧第11条線下・一部改正、平23条例48・旧第13条線下)

(横浜美術館指定管理者選定評価委員会)

第15条 指定管理者の候補者の選定、指定管理者による美術館の管理の業務に係る評価等について調査審議するため、横浜美術館指定管理者選定評価委員会を置く。

2 選定評価委員会は、市長が任命する委員10人以内をもって組織する。

3 前項に定めるもののほか、選定評価委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、市長が定める。

(平23条例48・追加)

(委任)

第16条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(平17条例69・旧第13条線下、平23条例48・旧第14条線下)

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。

(平成元年10月規則第96号により同年11月3日から施行)

附則(平成元年9月条例第39号)

この条例は、横浜美術館条例の施行の日から施行する。

附則(平成10年3月条例第17号)抄

(施行期日)

1 この条例は、平成10年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際既にこの条例による改正前のそれぞれの条例の規定に基づき施設の使用の申請を行っている者に係る当該施設の料金の納付等に関し必要な事項は、市長又は教育委員会が定める。

附則(平成13年2月条例第7号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附則(平成14年2月条例第5号)抄

この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附則(平成17年6月条例第69号)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の横浜美術館条例第12条の規定によりその管理に関する事務を委託している横浜美術館については、地方自治法の一部を改正する法律(平成15年法律第81号)附則第2条に規定する日までの間は、なお従前の例による。

附則(平成19年2月条例第6号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附則(平成23年3月条例第23号)

この条例は、平成23年4月1日から施行する。

附則(平成23年12月条例第48号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前のそれぞれの条例の規定に基づき公の施設の管理に関する業務を行っている指定管理者が、その指定の期間においてこの条例の施行の日前までにこの条例による改正後のそれぞれの条例の規定による当該業務についての評価に相当する評価を受けている場合にあつては、当該期間においては当該業務についての評価に係るこれらの規定は適用しない。

附則(平成28年2月条例第4号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

条例・施行規則

別表第1(第10条第6項)

(平10条例17・平13条例7・平17条例69・平19条例6・平23条例23・平23条例48・平28条例4・一部改正)

区分	単位	利用料金	
		個人	団体(20人以上)
一般		500円	400円
大学生・高校生	1人1回につき	300円	240円
中学生・小学生		100円	80円

(備考)

- 1 「一般」とは、「大学生・高校生」、「中学生・小学生」及び小学校(義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部及びこれらに準ずるものを含む。)に就学するまでの者以外の者をいう。
- 2 「大学生・高校生」とは、大学、短期大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、専修学校若しくは各種学校に在学する学生若しくは生徒又はこれらに準ずる者をいう。
- 3 「中学生・小学生」とは、中学校、中等教育学校の前期課程、義務教育学校、小学校若しくは特別支援学校の中学部若しくは小学部に在学する生徒若しくは児童又はこれらに準ずる者をいう。
- 4 小学校(義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部及びこれらに準ずるものを含む。)に就学するまでの者は、無料とする。

別表第2(第10条第6項)

(平10条例17・平17条例69・平23条例23・平23条例48・一部改正)

区分	単位	利用料金
ビデオ学習システムブース		100円
名画鑑賞システムブース	1回につき	100円

別表第3(第10条第6項)

(平10条例17・全改、平17条例69・平23条例23・平23条例48・一部改正)

区分	単位	利用料金	
		平日	日曜日、土曜日及び休日
レクチャーホール	1日につき	20,000円	24,000円
附帯設備	1式、1台又は1枚、1日につき	150,000円	

(備考)

- 1 「1日」とは、午前10時から午後9時までをいう。
- 2 「平日」とは日曜日、土曜日及び休日以外の日をいい、「休日」とは国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日をいう。
- 3 レクチャーホール及び附帯設備の利用が、午前10時から午後9時までの時間以外の時間(以下「時間外」という。)にわたった場合の当該時間外に係る利用料金の額は、時間外における利用1時間につき、レクチャーホール及び利用する当該附帯設備の1日の利用料金の額にそれぞれ8分の1を乗じて得た額を合算して得た額とする。この場合において、時間外における利用時間が1時間未満のとき、又はこれに1時間未満の端数があるときは、その時間又は端数時間を1時間として計算する。

別表第4(第10条第6項)

(平23条例23・追加、平23条例48・一部改正)

区分	単位	利用料金
大型車	1台、30分につき	500円
その他のもの	1台、1時間30分まで	500円
	利用時間が1時間30分を超えるときは、超過時間30分までごとに250円を加算する。	

横浜美術館条例施行規則

平成元年10月25日
規則第97号

横浜美術館条例施行規則をここに公布する。
横浜美術館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、横浜美術館条例(昭和63年9月横浜市条例第44号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 横浜美術館(以下「美術館」という。)の開館時間は、次のとおりとする。

- (1) 常設展示室、美術情報室、美術図書室、グランドギャラリー、企画展示室及びアトリエ 午前10時から午後6時まで
- (2) レクチャーホール 午前10時から午後9時まで
- (3) 駐車場 午前10時から午後9時まで(大型車にあっては、午前10時から午後6時まで)

2 市長は、前項の規定にかかわらず、特に必要があると認める場合は、開館時間を変更することができる。
(平23規則22・一部改正)

(休館日)

第3条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 木曜日。ただし、その日が、国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときはその翌日とし、当該翌日が休日に当たるときは日曜日、土曜日及び休日のいずれにも当たらない直近の日とする。
- (2) 1月1日から1月3日まで及び12月29日から12月31日まで

2 市長は、前項の規定にかかわらず、特に必要があると認める場合は、休館日に開館し、又は休館日以外の日に開館しないことができる。
(平14規則32・一部改正)

(指定申請書の提出等)

第4条 指定管理者の指定を受けようとするものは、指定申請書(第1号様式)を市長に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、条例第5条第3項に規定する事業計画書及び次に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (2) 法人にあっては、当該法人の登記事項証明書
- (3) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度の収支予算書及び事業計画書並びに前事業年度及び前々事業年度の収支計算書及び事業報告書
- (4) 美術館の管理に関する業務の収支予算書
- (5) その他市長が必要と認める書類

(平17規則89・追加、平19規則47・一部改正)

(施設の利用許可申請等)

第5条 条例第8条第1項の規定により美術館の施設の利用の許可を受けようとする者は、利用許可申請書(第2号様式)を指定管理者に提出しなければならない。

2 指定管理者は、企画展示室及びアトリエについては、指定管理者と共催して美術館の設置目的に合致する事業を行うため当該施設を利用しようとする団体に対し、利用を許可するものとする。
(平10規則42・平14規則32・一部改正、平17規則89・旧第4条線下・一部改正、平24規則16・一部改正)

(申請の受付)

第6条 前条第1項の申請の受付は利用日の3箇月前の日の属する月の初日から行うものとし、受付時間は午前10時から午後5時までとする。ただし、

指定管理者が主催し、又は共催して利用する場合は、この限りでない。
(平10規則42・平14規則32・一部改正、平17規則89・旧第5条線下・一部改正)

(特別利用の許可申請)

第7条 条例第9条第1項の規定により特別利用の許可を受けようとする者は、特別利用許可申請書(第3号様式)を指定管理者に提出しなければならない。
(平10規則42・一部改正、平17規則89・旧第6条線下・一部改正、平24規則16・一部改正)

(申請の受付)

第8条 前条の申請は特別利用をしようとする日の7日前までに行わなければならないものとし、受付時間は午前10時から午後5時までとする。
(平10規則42・一部改正、平17規則89・旧第7条線下)

(観覧券の発行)

第9条 指定管理者は、常設展示室において展示されている美術品及び美術に関する資料を観覧しようとする者に対し、観覧券を発行するものとする。この場合において、観覧券の発行は、閉館時間の30分前まで行うものとする。

2 前項に規定する観覧券は、利用料金と引換えに交付する。
(平10規則42・平14規則32・一部改正、平17規則89・旧第8条線下・一部改正)

(美術情報機器の利用)

第10条 条例第10条第2項に規定する美術情報機器を利用しようとする者は、美術情報機器に備付けの料金受入機により利用料金を納付しなければならない。
(平10規則42・一部改正、平17規則89・旧第9条線下・一部改正、平24規則16・一部改正)

(利用料金の後納)

第11条 条例第10条第7項ただし書に規定する規則で定める場合は、国又は地方公共団体が利用する場合とする。
(平10規則42・旧第11条線下・一部改正、平17規則89・旧第10条線下・一部改正、平23規則22・平24規則16・一部改正)

(利用料金の減免)

第12条 条例第11条に規定する規則で定める場合は次の各号に掲げるとおりとし、免除する利用料金の額は当該各号に定めるとおりとする。この場合において、その額に10円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てる。

- (1) 教職員に引率された横浜市内の小学校(特別支援学校の小学部を含む。)若しくは中学校(中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。)の児童若しくは生徒又は各種学校の小学校若しくは中学校に相当する課程に在学する者の団体及びそれらの引率者が、教育上の目的から常設展示室において展示されている美術品及び美術に関する資料の観覧(以下「常設展の観覧」という。)をする場合 利用料金の全額
- (2) 土曜日に、小学校(特別支援学校の小学部を含む。)、中学校(中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。)若しくは高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。)の児童若しくは生徒、高等専門学校、専修学校若しくは各種学校の小学校、中学校若しくは高等学校に相当する課程に在学する者又はこれらに準ずると認められる者が、常設展の観覧をする場合 利用料金の全額
- (3) 教職員に引率された横浜市内の高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。)の生徒又は高等専門学校、

専修学校若しくは各種学校の高等学校に相当する課程に在学する者の団体及びそれらの引率者が教育上の目的から常設展の観覧をする場合 利用料金の半額

- (4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第12条第1項に規定する児童相談所若しくは知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）第12条第1項に規定する知的障害者更生相談所において知的障害との判定を受けた者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びこれらの者の介護者が、常設展の観覧をする場合 利用料金の全額
- (5) 国又は地方公共団体がレクチャーホールを利用する場合 利用料金の全額
- （平7規則45・平8規則20・一部改正、平10規則42・旧第12条繰上・一部改正、平11規則28・平13規則36・平17規則31・一部改正、平17規則89・旧第11条繰下・一部改正、平19規則47・平24規則16・一部改正）

（利用料金の返還）

- 第13条 条例第12条ただし書に規定する規則で定める場合は次の各号に掲げるとおりとし、返還する利用料金の額は当該各号に定めるとおりとする。
- (1) 常設展の観覧、美術情報機器及びレクチャーホールの利用並びに美術品及び美術に関する資料の特別利用について、観覧、利用及び特別利用をする者の責めに帰することができない事由によりこれらの行為ができなくなった場合 既納の利用料金の全額
- (2) レクチャーホールの利用の許可を受けた者が利用日の30日前までに利用の許可の取消しを申し出た場合 既納の利用料金の全額
- (3) 特別利用の許可を受けた者が利用日の前日までに特別利用の許可の取消しを申し出た場合 既納の利用料金の全額
- （平10規則42・追加、平17規則89・旧第12条繰下・一部改正、平24規則16・一部改正）

（委任）

- 第14条 この規則の施行に関し必要な事項は、文化観光局長が定める。
- （平10規則42・旧第14条繰上、平17規則89・旧第13条繰下・一部改正、平18規則84・平22規則29・平23規則22・一部改正）

附則

この規則は、平成元年11月3日から施行する。

附則（平成4年9月規則第88号）

この規則は、平成4年9月12日から施行する。

附則（平成6年3月規則第41号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成6年4月1日から施行する。

（経過措置）

3 この規則の施行の際現にこの規則による改正前の（中略）規定により作成されている様式書類は、この規則の施行の日から1年間は、適宜修正の上使用することができる。

附則（平成7年3月規則第45号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附則（平成8年3月規則第20号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附則（平成10年3月規則第42号）

（施行期日）

1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則による改正後のそれぞれの規則の規定は、この規則の施行の日以後の申請に係る料金の減免及び返還について適用し、同日前の申請に係る料金の減免及び返還については、なお従前の例による。

3 この規則の施行の際現にこの規則による改正前のそれぞれの規則の規定により作成されている様式書類は、なお当分の間、適宜修正の上使用することができる。

4 前2項に定めるもののほか、この規則の施行について必要な事項は、市長が定める。

附則（平成11年3月規則第28号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附則（平成13年3月規則第36号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附則（平成14年3月規則第32号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附則（平成17年3月規則第31号）

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附則（平成17年6月規則第89号）

この規則は、公布の日から施行する。

附則（平成18年3月規則第84号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

（経過措置）

5 この規則の施行の際現に決裁処理の過程にある事案の処理については、なお従前の例による。

附則（平成19年3月規則第47号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附則（平成22年3月規則第29号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

（経過措置）

6 この規則の施行の際現に決裁処理の過程にある事案の処理については、なお従前の例による。

附則（平成23年3月規則第22号）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。ただし、第14条の改正規定は、平成23年5月1日から施行する。

附則（平成24年3月規則第16号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附則（平成28年3月規則第23号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

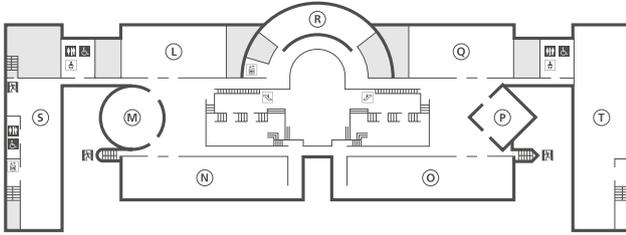
第1号様式（第4条第1項）

（平17規則89・追加、平19規則47・一部改正）

※ 様式省略

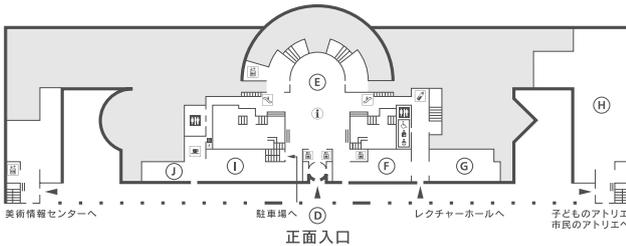
施設概要・利用案内

3F



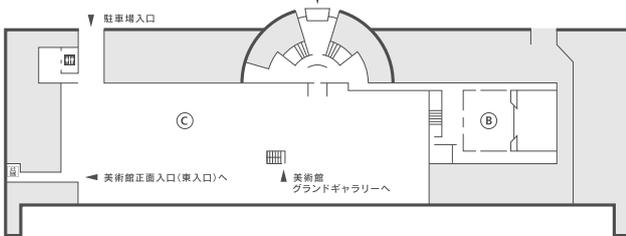
- ① ② 展示室
- ③ 美術情報センター
- ④ 市民のアトリエ

2F



- ⑤ 正面入口
- ⑥ グランドギャラリー
- ⑦ アートギャラリー2
- ⑧ アートギャラリー1
- ⑨ 子どものアトリエ
- ⑩ ミュージアムショップ
- ⑪ カフェ

1F



- ⑫ 西入口
- ⑬ レクチャーホール
- ⑭ 駐車場

建築概要

敷地面積 19,803m²
 建築面積 9,621m²
 延床面積 26,829m²
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造8階建(一部3階建)
 外装 花崗岩張り、アルミ成型板張り、軽量コンクリート金ゴテ押さえ、断熱セメントブロック敷込み、金属成型板張り
 内装 岩綿吸音板、プラスターボード、フレキシブルボード、金属成型パネル、花崗岩張り、フローリング板張り
 設計 丹下健三・都市・建築設計研究所
 監理 横浜市建築局、丹下健三・都市・建築設計研究所
 施工 建築工事：JV(竹中工務店、清水建設、奥村組、東急建設、佐藤工業、奈良建設ほか計18社)

休館日

木曜日(祝日を除く)、木曜日に祝日開館した場合はその翌日、年末年始。

開館時間

展覧会：10:00～18:00(入館は17:30まで)
 美術情報センター：10:00～18:00(入室および各種利用受付は17:30まで)
 *次の施設は利用時間が異なります。
 ミュージアムショップ：11:00～18:00
 Café小倉山：10:45～18:00(ラストオーダー17:30)
 駐車場：10:00～21:00/収容台数：169台
 有料(最初の90分500円、以降30分毎に250円)

観覧料

コレクション展：一般	500(400)円
大学・高校生	300(240)円
中学生	100(80)円
小学生以下無料	

企画展： 展覧会ごとに異なる

()内は有料20名以上の団体料金(要事前申込)

交通案内

電車：

みなとみらい線(東急東横線直通)を利用の場合：
 みなとみらい駅下車、3番出口からマークイズみなとみらい(グランドギャラリー)経由、徒歩3分。または(マークイズ連絡口)(10:00～)徒歩5分。
 JR、横浜市営地下鉄を利用の場合：
 桜木町駅下車(動く歩道)を利用、徒歩10分。

車：

桜木町駅から日本丸方面へ入る。または桜木町駅前から紅葉坂交差点を右折してMM21地区へ入り、美術館へ。横浜駅からは高島町MM21地区入口を通して美術館へ。いずれも3～5分(首都高速「みなとみらい出入口」も利用できます)。

令和4年度 横浜美術館年報

令和6年1月25日発行

編集・発行：横浜美術館

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1

TEL:045-221-0300(代) FAX:045-221-0317

<https://yokohama.art.museum>

デザイン：峯石景子

© Yokohama Museum of Art 2024

